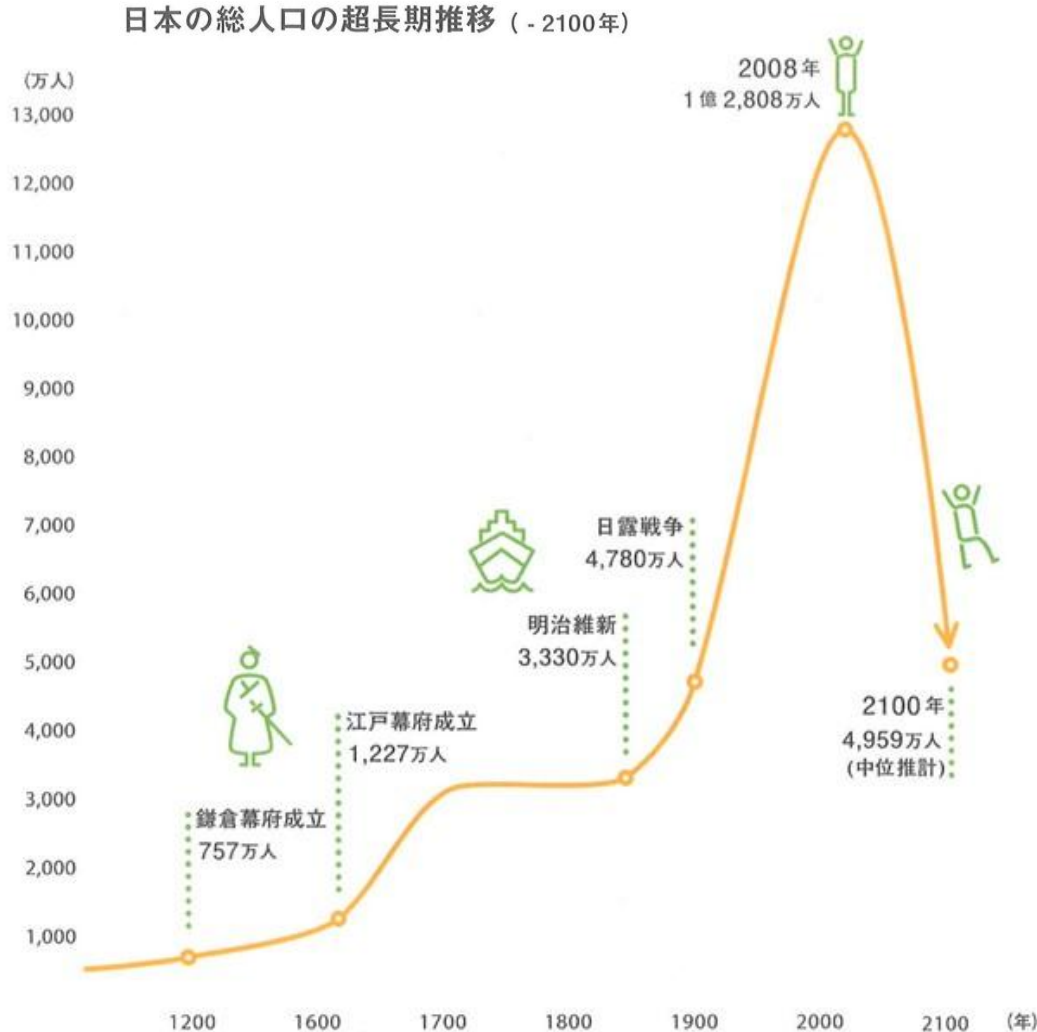

氷見市人口ビジョン(案)

1. 人口の現状分析	2
2. 将来展望に必要な調査・分析	10
3. 人口展望を考える際の観点	19
4. 人口の将来展望にあたっての条件	24
5. 推計パターン別人口推移	27
（参考）推計の詳細等	39
（参考2）ライフステージを通じた 人口移動の説明と15の観点の説明	46

1. 人口の現状分析

日本の超長期の人口推移

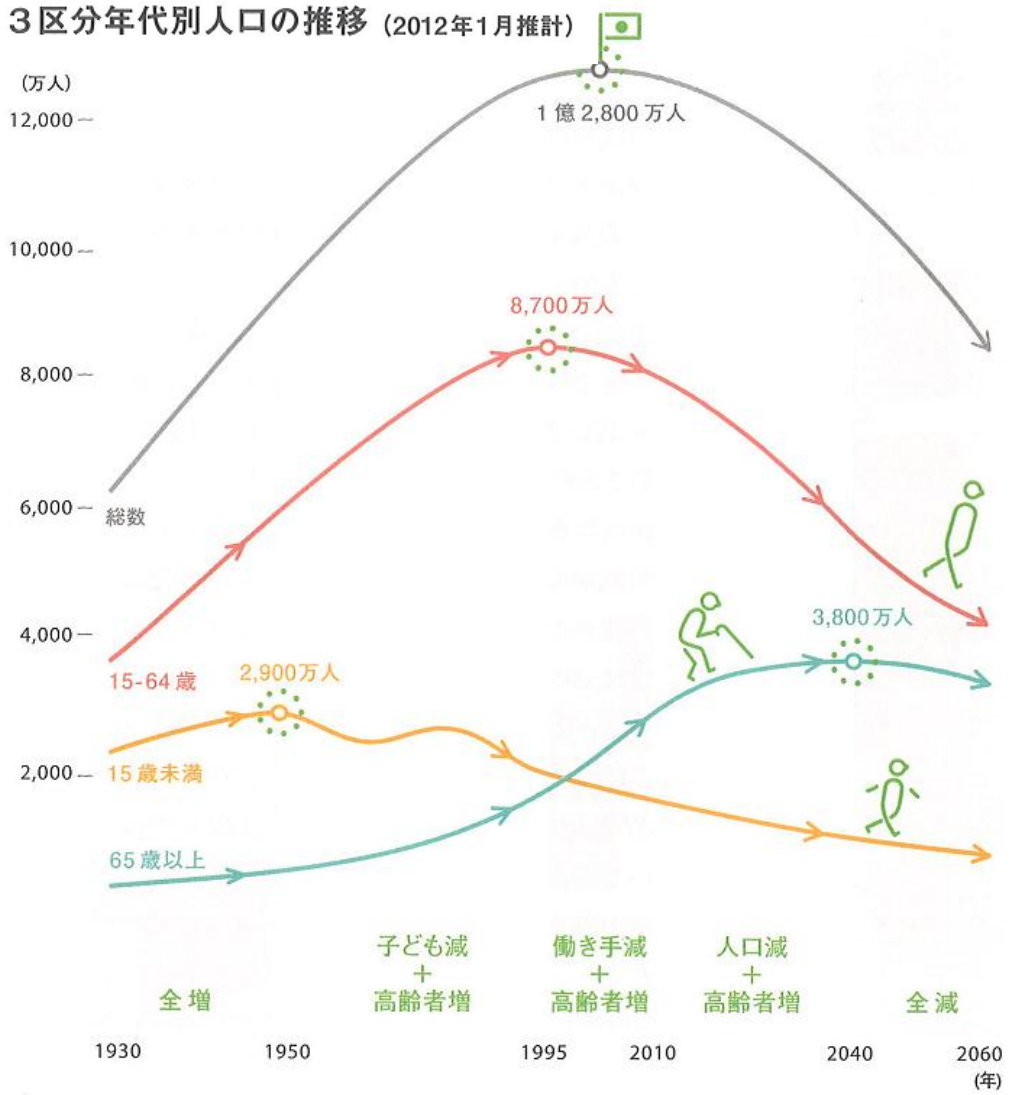
- 日本の人口は、明治維新以降の140年間で人口が4倍近く増加しました。しかしながら、2008年をピークとして人口が急減するという推計となっています



出典：人口減少×デザイン
著 筧 裕介

日本の人口推移（3区分年代別）

■ 日本の人口全体は2008年にピークを迎えています、65歳以上年齢人口は2040年頃にピークを迎えます

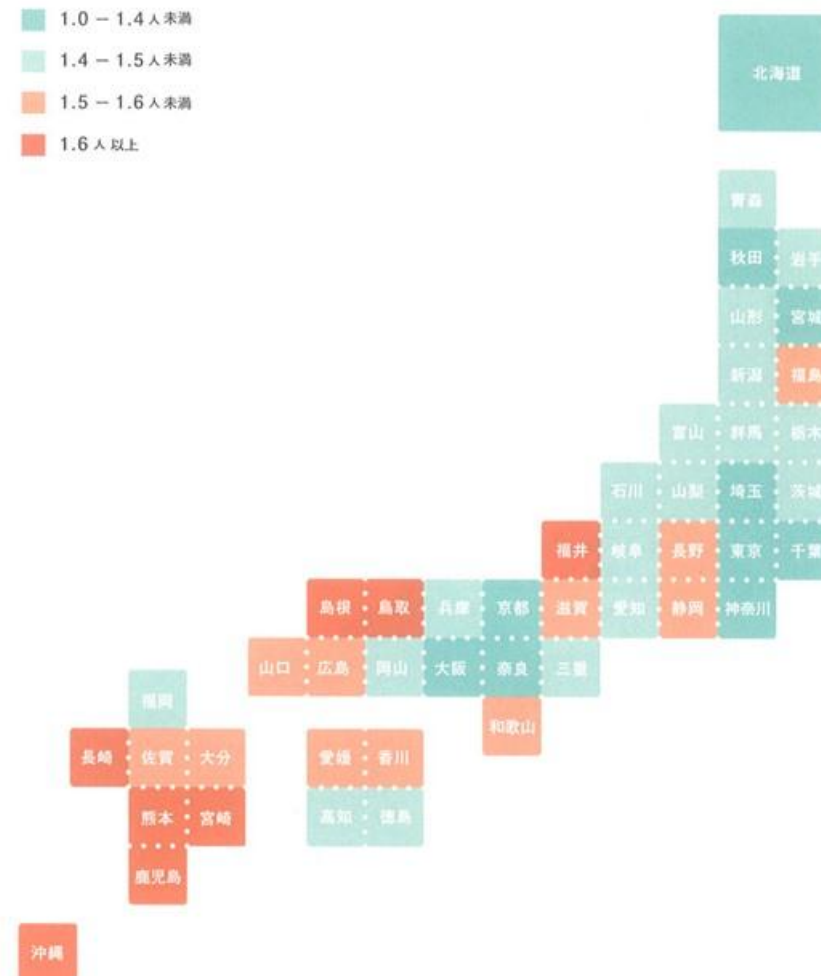


出典：人口減少×デザイン
著 筧 裕介

都道府県別合計特殊出生率

- 2013年の都道府県別の合計特殊出生率は、九州エリアが相対的に高く、大都市圏および東日本エリアが相対的に低いです

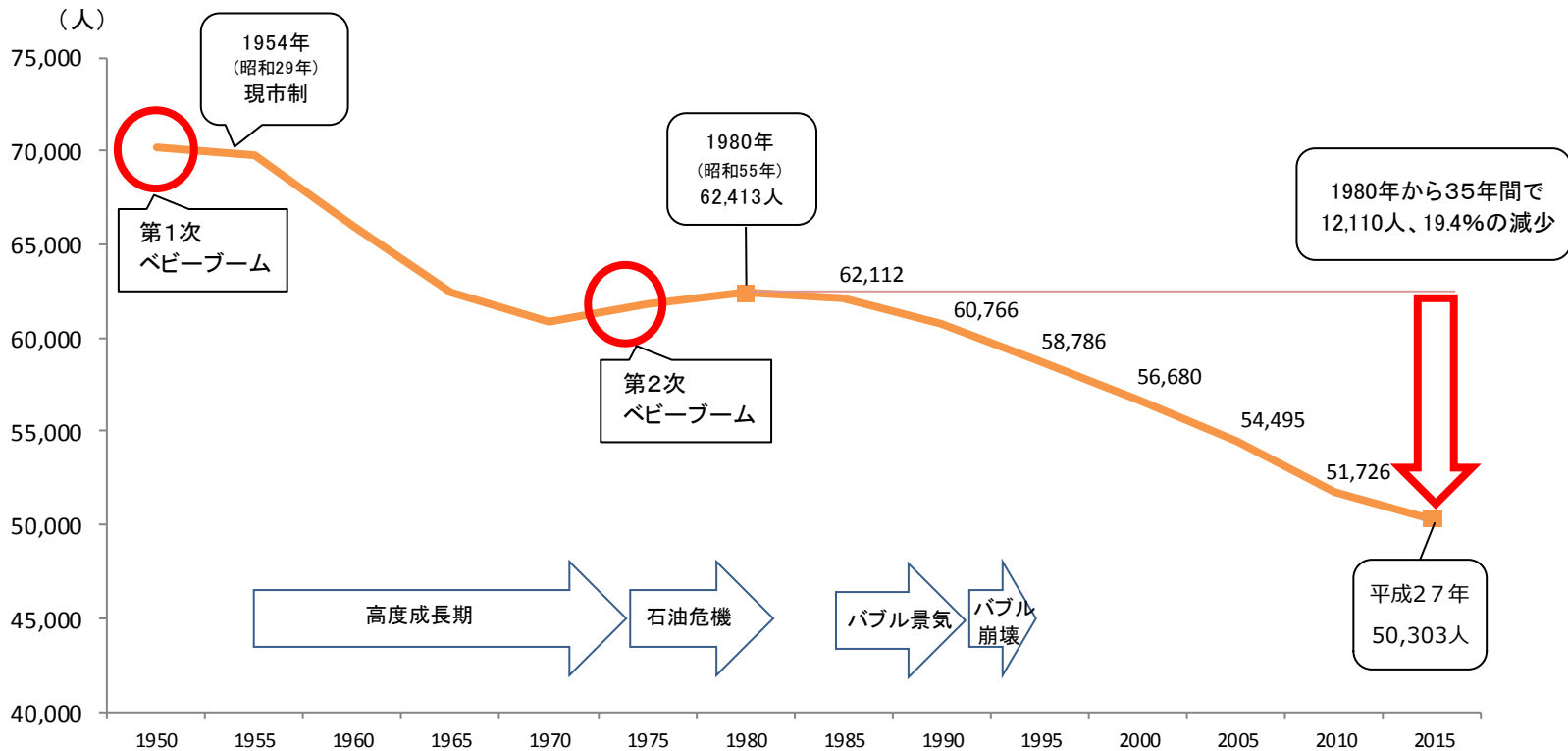
都道府県別合計特殊出生率 (2013年)



出典：人口減少×デザイン
著 筧 裕介

氷見市の総人口の推移

- 氷見市の総人口は1950年代の約70,000人をピークに減少が続いています。一時的に人口増となった1980年の人口62,413人と直近の人口50,303人（2015年3月末）と比較すると12,110人、19.4%減少しています



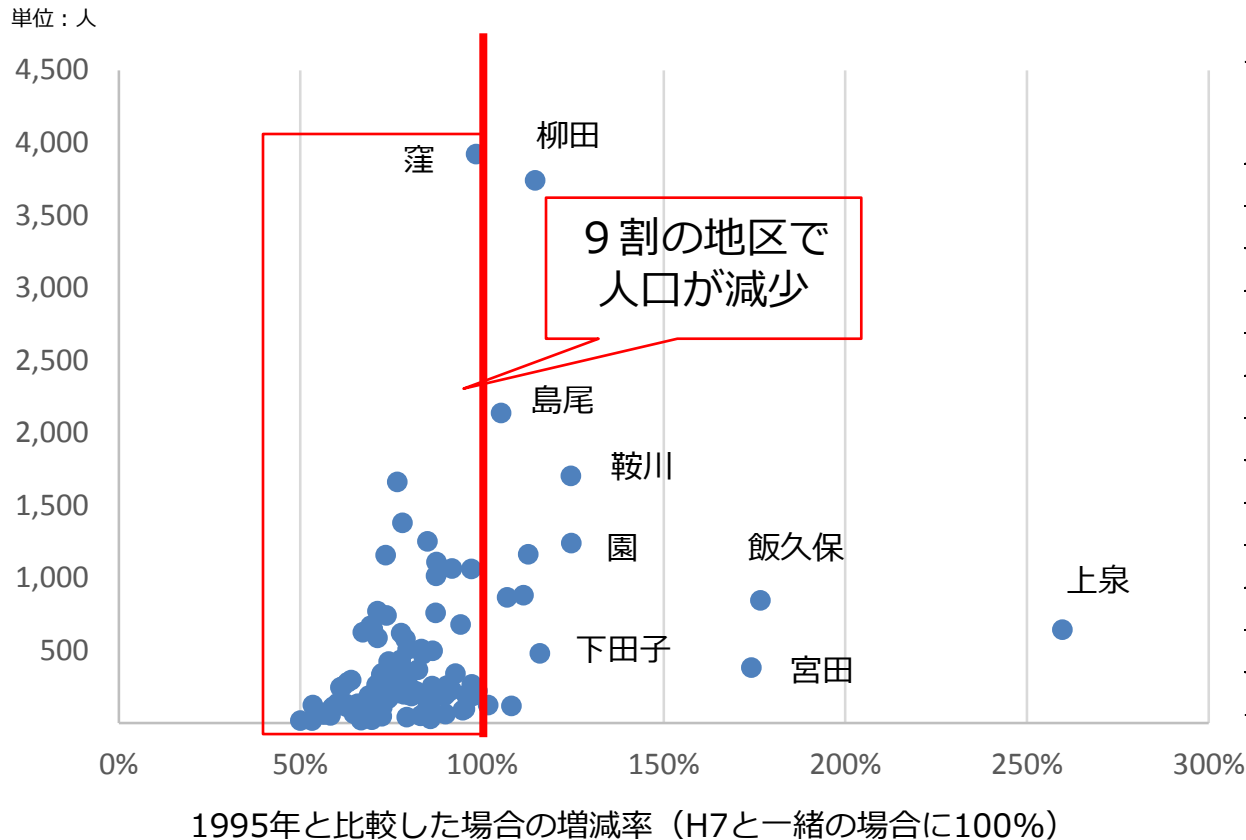
出典：1950～2010年までは国勢調査、2015年は住民基本台帳

氷見市の集落内人口増減

■ 1995年から2010年までの間で、一部の地区を除き地区内の人口が減少しています

- ・ 15年間で9割の地区内の人口が減少しています

2010年における氷見市内各地区の人口（縦軸）と、1995年と比較した場合の人口増減率（横軸）

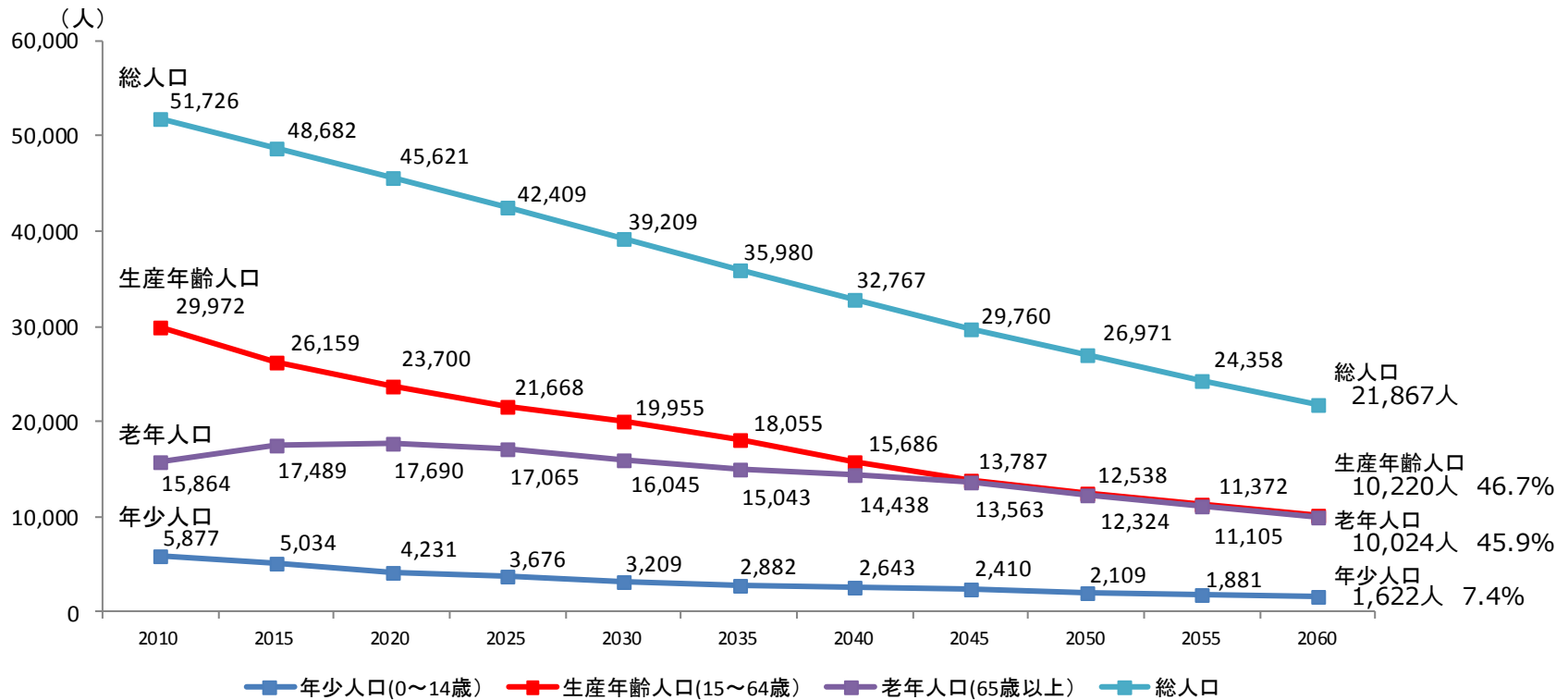


(参考) 15年間で人口が増加した地区

地区	2010年 総数	1995年と 比較した場合 の増減人数	1995年と 比較した場合 の増減比率
上泉	644	396	259.7%
飯久保	846	367	176.6%
宮田	383	163	174.1%
園	1,240	244	124.5%
鞍川	1,704	334	124.4%
下田子	481	66	115.9%
柳田	3,742	477	114.6%
加納	1,163	131	112.7%
稻積	883	90	111.3%
川崎	120	9	108.1%
大野	867	56	106.9%
島尾	2,139	106	105.2%
中尾	125	2	101.6%

氷見市の将来の人口推移：年齢別人口

- 社人研推計を年齢3区分で見ると、年少人口及び生産年齢人口は減少し続け、老年人口は2020年頃をピークとして、減少に転じることが予想されています



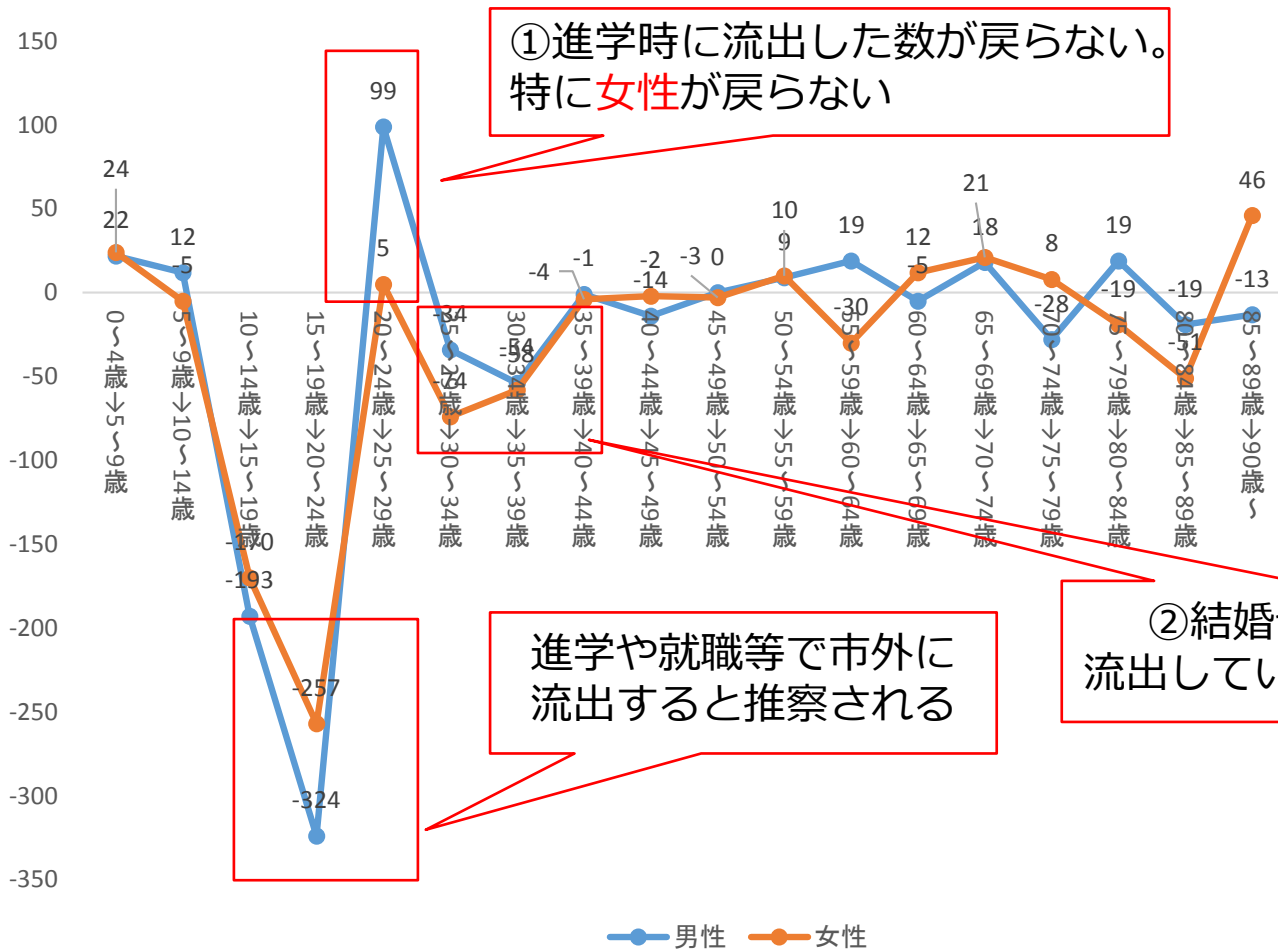
2. 将来展望に必要な調査・分析

社会増減のフォーカスポイント

■ 社会増減については、「①進学で氷見市外に引っ越した人が戻らない」「②30代での社会流出が続いている」という状況です

2005年→2010年の氷見市の人口移動

(単位：人)



①進学時に流出した数が戻らない。特に女性に戻らない

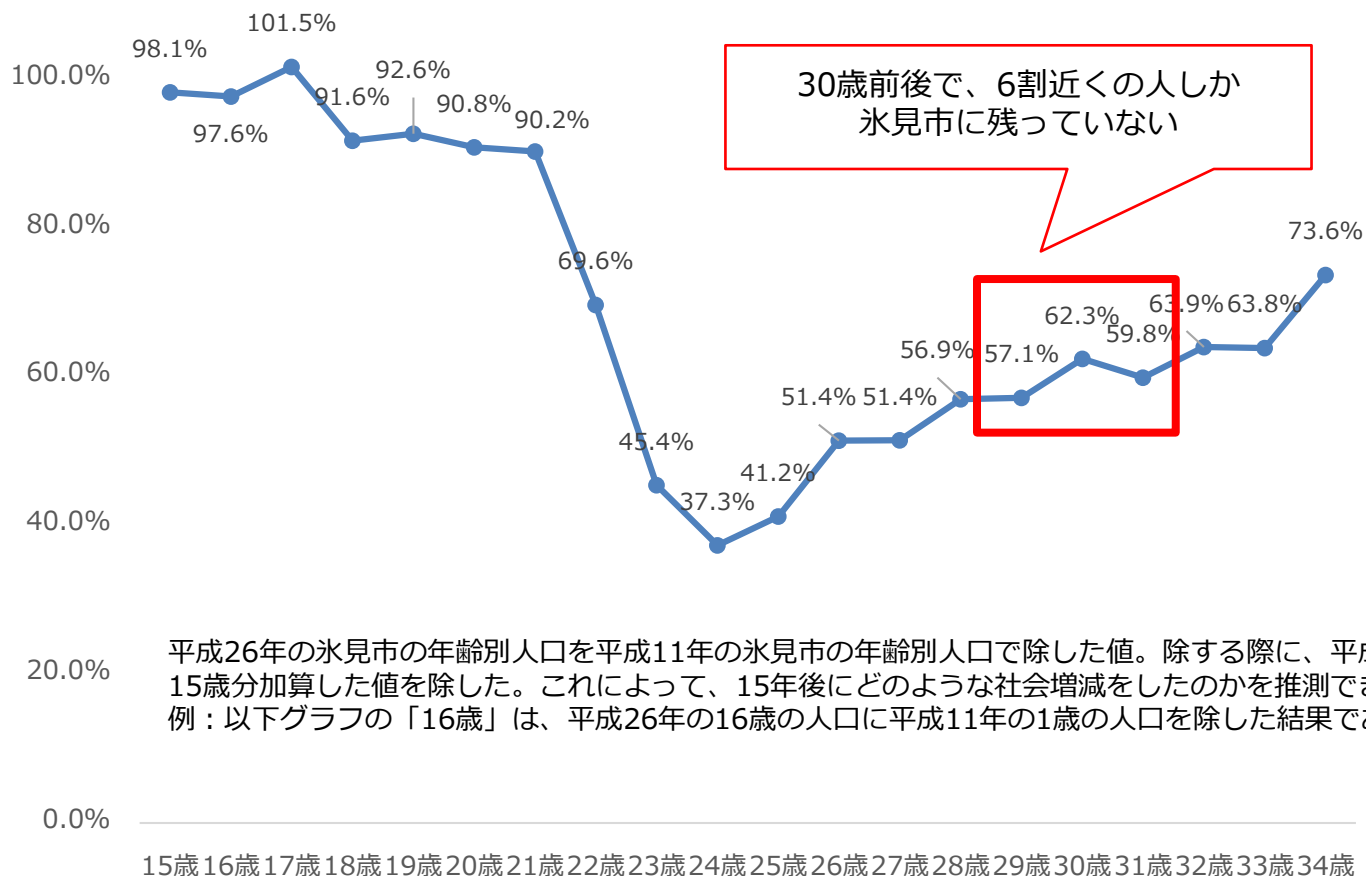
進学や就職等で市外に流出すると推察される

②結婚や住居選択で流出していると考えられる

(出典) resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』より

- 平成26年の年代別人口を15年前の同年代の人口（例：28歳であれば15年前の13歳）と比較した場合、30歳前後では6割近くの人口しか氷見市に残っていません
 - ・ 4割近くの人口が氷見市外に出たまま帰ってこないと考えられます

15年前と比較した同年代の人口割合（氷見市）



仕事先の選択 ～氷見市の昼夜間人口比率～

■ 氷見市の昼夜間人口比率は、県西部で最も低いです。通勤・通学をするために県外に出ている割合が高いため、結婚や住宅購入の際に職場近くへ行く可能性も高くなると推察されます

市町村別の昼夜間人口比率(2010年・H22)

地域	市町村	夜間(常住)人口(人)	流入人口	流出人口	流入-流出	昼間人口(人)	昼夜間人口比率
新川	朝日町	13,651	1,568	3,565	△ 1,997	11,654	85.4%
	入善町	27,182	3,703	7,188	△ 3,485	23,697	87.2%
	黒部市	41,852	9,717	7,489	2,228	44,080	105.3%
	魚津市	44,959	9,548	9,265	283	45,242	100.6%
	計	127,644	-	-	△ 2,971	124,673	97.7%
富山	上市町	21,965	4,188	6,878	△ 2,690	19,275	87.8%
	立山町	27,466	4,001	9,273	△ 5,272	22,194	80.8%
	滑川市	33,676	7,704	9,940	△ 2,236	31,440	93.4%
	舟橋村	2,967	670	1,383	△ 713	2,254	76.0%
	富山市	421,953	49,928	23,212	26,716	448,669	106.3%
計	508,027	-	-	15,805	523,832	103.1%	
県西部	射水市	93,588	19,361	23,804	△ 4,443	89,145	95.3%
	高岡市	176,061	30,400	28,161	2,239	178,300	101.3%
	氷見市	51,726	3,178	10,411	△ 7,233	44,493	86.0%
	小矢部市	32,067	6,049	7,722	△ 1,673	30,394	94.8%
	砺波市	49,410	10,941	12,961	△ 2,020	47,390	95.9%
	南砺市	54,724	7,500	9,128	△ 1,628	53,096	97.0%
計	457,576	-	-	△ 14,758	442,818	96.8%	
富山県	1,093,247	6,376	8,300	△ 1,924	1,091,323	99.8%	

市民の1/5に相当する1万人が昼間に外部流出

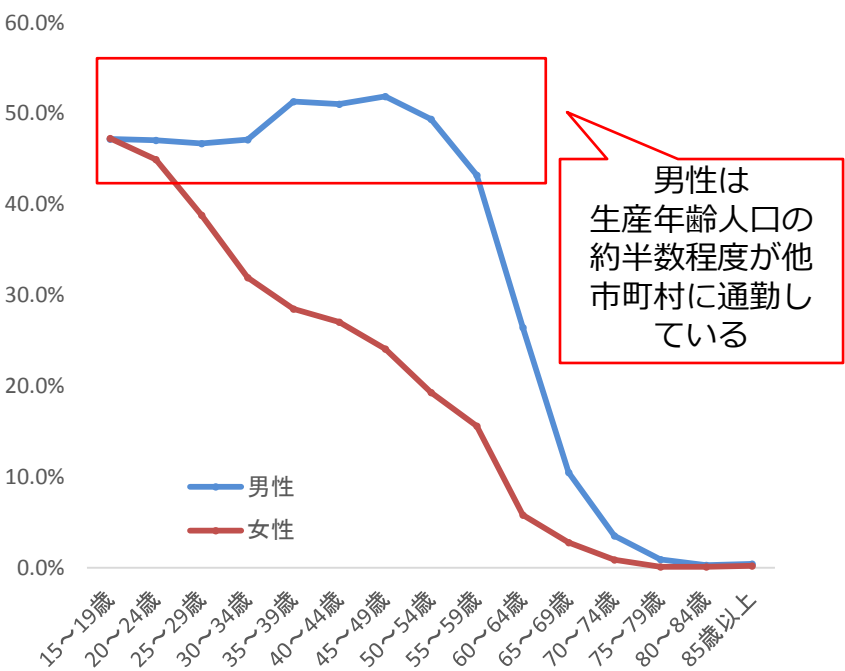
県西部では昼夜間人口比率が最も低い

・夜間(常住)人口:調査の時期に調査の地域に常住している人口
 ・昼間人口:従業地・通学地による人口。買い物など非定常な移動は含まない。
 ・流入人口:他地域からの通勤・通学者数
 ・流出人口:他地域への通勤・通学者数

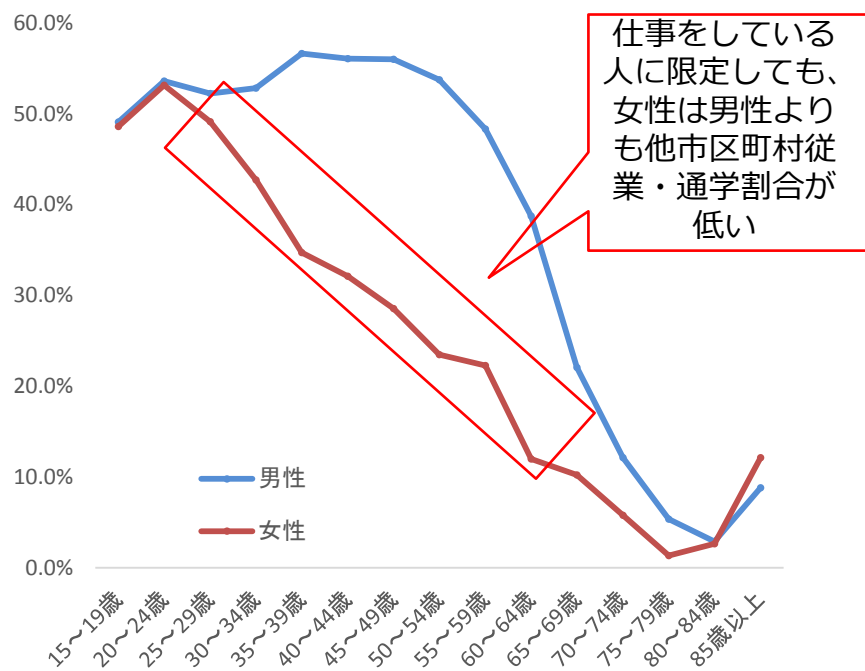
※総務省統計局「平成22年国勢調査(従業地・通学地による人口・産業等集計)」

- 氷見市では、男性の生産年齢人口の約半数程度が他市町村に通勤しています
- 女性は、男性に比べると他市町村勤務者の割合が少ない（市内勤務の割合が多い）です。この傾向は「従業も通学もしていない者を除いた割合」においても同様です
 - ・ 「若い女性が氷見の仕事をお好まない」「氷見市以外で働いている女性（もしくはその世帯）が結婚や住居購入等の理由で他地域へ転居する」と推察されます

夜間人口に占める他市区町村で従業・通学者割合



左記の分母から従業も通学もしていない者を除いた割合



(出典) 平成22年国勢調査より。計算の分母は「従業も通学もしていない」「自宅で従業」「自宅外の自市区町村で従業・通学」「他市区町村で従業・通学」の合計である。

仕事先の選択 ～氷見市の昼夜間人口比率～

■ 氷見市から通勤や通学で昼間に出ていっている先の7割近くは高岡市です。次いで射水市、富山市が続きます、この3市で全体の約94%を占めます

付表 通勤・通学による市町村間の流入・流出人口(15歳以上) (平成22年)

常住地(表側)の市町村から従業地・通学地(表頭)の市町村へ通勤・通学したことを表している。

例1: 富山市には、通勤・通学のために高岡市から7,605人、魚津市から2,770人……金沢市の934人を含む他県から2,579人流入した。

例2: 富山市から、通勤・通学のために高岡市へ3,570人、魚津市へ1,582人……金沢市の1,092人を含む他県へ2,363人流出した。

氷見市民の昼間人口のうち7割近くは高岡市に出ている

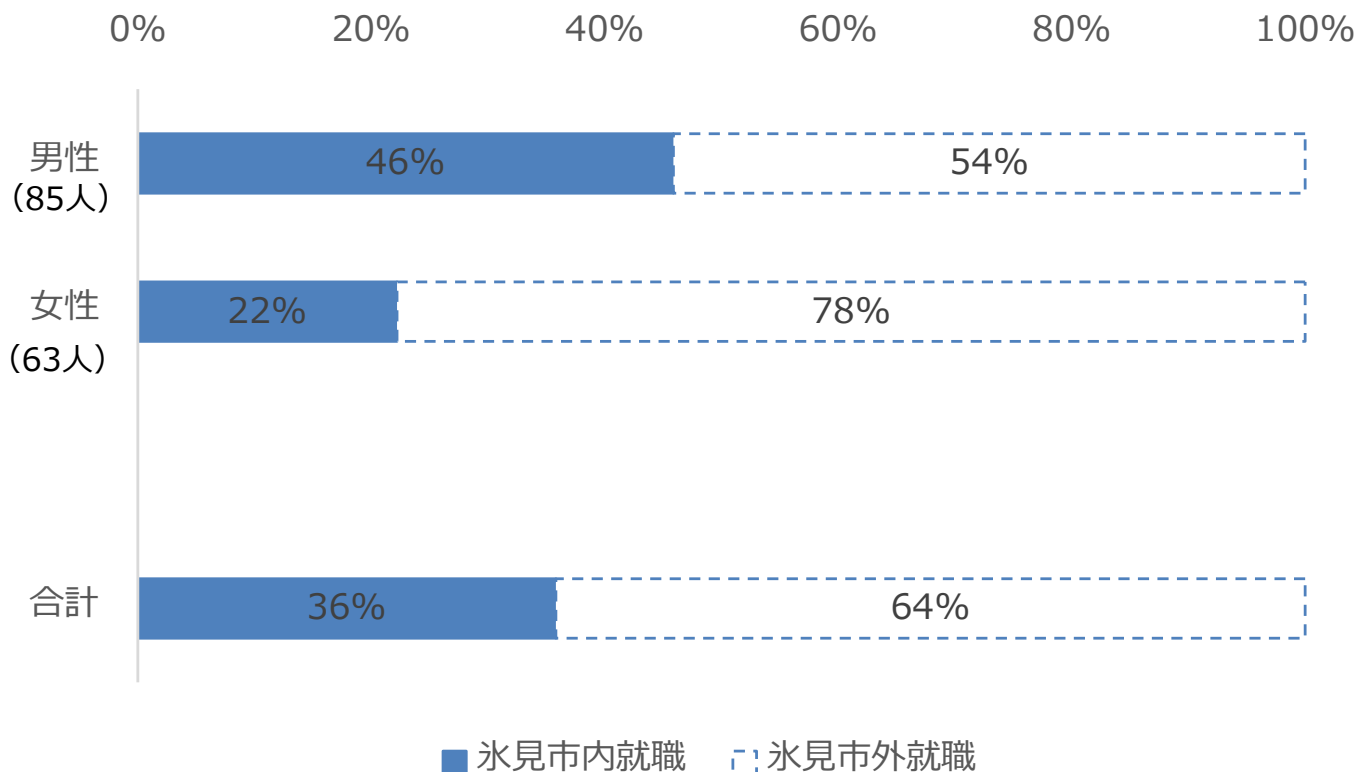
従業地・通学地 常住地	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県内計	他県計	他県で最も多い市町村・流出人口
富山市	/	3,570	1,582	119	2,788	821	894	174	415	5,788	273	1,639	2,548	156	38	20,805	2,363	金沢市 1,092
高岡市	7,605	/	89	2,145	94	29	3,488	2,035	1,364	9,409	4	20	40	8	3	26,330	1,705	金沢市 1,158
魚津市	2,770	51	/	1	2,025	3,057	12	1	5	106	16	294	97	535	131	9,101	113	金沢市 48
氷見市	1,138	6,822	20	/	10	13	214	180	176	1,436	0	2	4	1	1	10,017	361	金沢市 166
滑川市	5,109	110	2,040	2	/	787	16	5	6	139	65	998	313	134	29	9,753	131	金沢市 71
黒部市	1,615	42	3,010	4	702	/	6	6	4	63	8	104	40	1,438	343	7,385	83	金沢市 28
砺波市	2,019	4,179	23	103	14	13	/	1,554	3,567	869	1	5	17	1	0	12,365	547	金沢市 405
小矢部市	829	2,527	9	63	8	4	1,551	/	1,177	363	0	1	11	0	0	6,543	1,160	金沢市 835
南砺市	1,138	1,878	11	38	8	4	3,550	1,345	/	360	0	3	9	1	0	8,345	772	金沢市 570
射水市	10,992	9,763	98	410	140	41	826	249	317	/	6	42	69	9	1	22,963	698	金沢市 379
舟橋村	921	15	42	1	76	12	8	0	2	27	/	128	128	4	0	1,364	10	金沢市 3
上市町	4,153	70	466	0	1,016	130	18	4	5	123	142	/	629	22	4	6,782	56	金沢市 27
立山町	7,109	99	229	2	431	84	20	6	11	153	132	849	/	19	4	9,148	79	金沢市 51
入善町	1,210	50	1,191	0	249	3,304	4	1	5	43	0	46	19	/	936	7,058	113	糸魚川市 44
朝日町	421	9	505	1	80	1,178	2	0	1	15	1	17	8	1,224	/	3,462	96	糸魚川市 59
県内計	47,029	29,185	9,315	2,889	7,638	9,477	10,609	5,560	7,055	18,894	648	4,148	3,932	3,552	1,490			
他県計	2,579	1,111	225	274	61	171	308	485	408	420	15	29	63	143	70			
他県で最も多い市町村・流入人口	金沢市 934	金沢市 394	糸魚川市 57	七尾市 78	金沢市 6	糸魚川市 85	金沢市 129	金沢市 204	金沢市 212	金沢市 119	東京特別区 大阪市 2	糸魚川市 4	大町市 22	糸魚川市 92	糸魚川市 60			

(出典) 平成22年国勢調査をとよま統計ワールド経由で情報取得

■ 近年の高卒者でハローワークを經由して職を得た人の過半数は氷見市外での就職です。女性は特に氷見市外での就職率が高いです

- ・ ヒアリングによると、高岡市等、近郊他市への就職が多いとの回答であり、高岡市等に就職する理由は「労働条件が良い（希望の職種がある）」「高岡市のほうが都会であり、仕事終わりに立ち寄れる場所が多い」との回答をいただきました

H25年度～H27年度の氷見高校生のうち、就職者の勤め先



(出典) ハローワーク氷見の資料より。人数は三年分の合計。なお、同統計によると氷見高校生の就職率は19.5%である

■ 氷見市に仕事が無いというわけではありません。「仕事を選んでいる」「仕事の種類が合わない」という理由であると推察されます。そのため、人が戻ってくるには、ただ仕事があればよいわけではありません

- ・ 高卒の有効求人倍率が以下の通りなので、大卒に関してはこの倍率よりも更に売り手市場であると推察されます

仕事が無いという状況ではない。
むしろ2社に1社を選べる状況である

氷見高校生の進路
(男女)

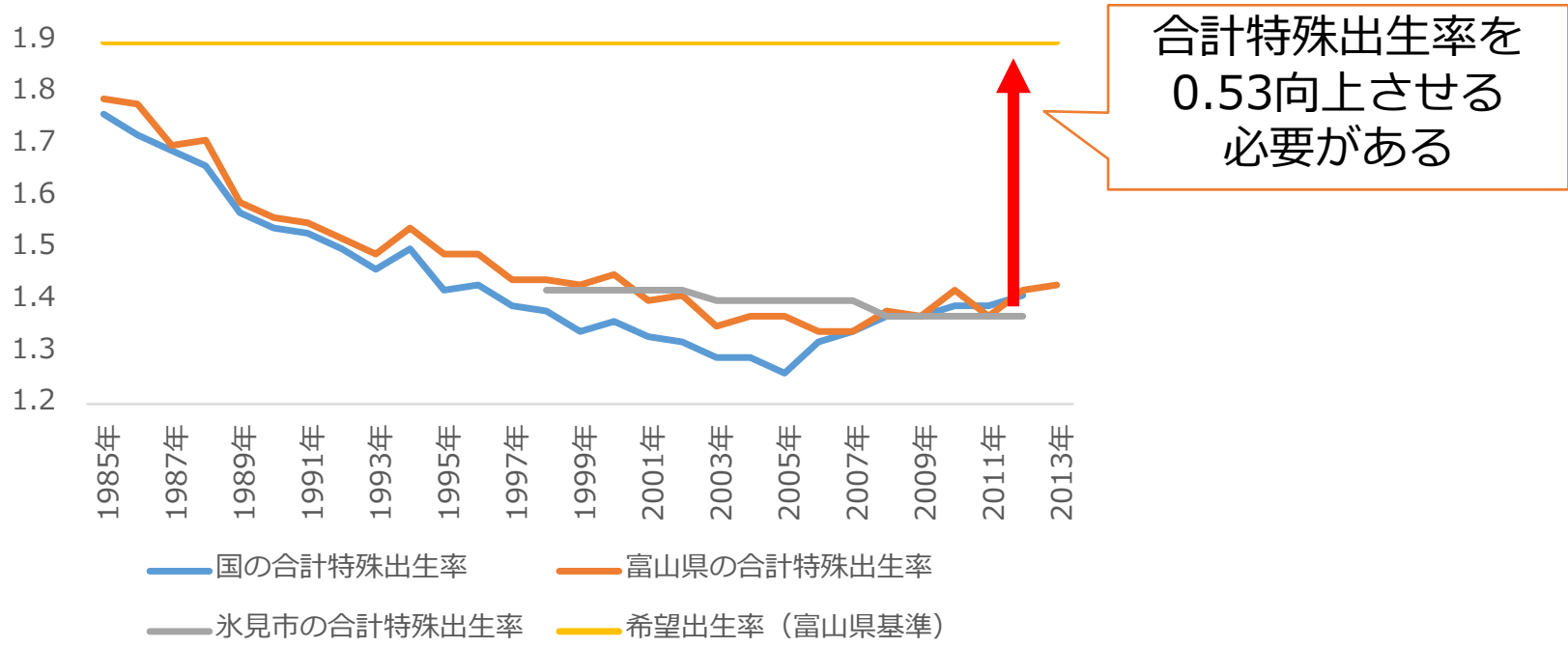
	卒業者数	進学等者数	就職希望者数	就職希望者のうち、安定所又は学校紹介希望	氷見市内就職者数	氷見市外就職者数	確認印を押した求人数	有効求人倍率
平成25年度	270	222	46	44	21	23	110	2.50
平成26年度	274	215	59	52	17	35	98	1.88
平成27年度	272	220	52	52	15	37	113	2.17
合計	816	657	157	148	53	95	321	2.17

(出典) ハローワーク氷見の資料より。人数は三年分の合計。就職率は約2割

■ 氷見市の合計特殊出生率は、1.37です

- ・ 合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数です。氷見市の場合、一人の女性が一生に1.37人の子供を産むという計算になります
- ・ 希望出生率の1.90に到達するには、合計特殊出生率を0.53向上させる（1.37から38.7%向上させる）必要があります

合計特殊出生率の推移と比較



(出典) 厚生労働省『人口動態調査』および同統計をresas経由で取得。上記グラフの氷見市の出生率は5年平均の数値を5年分利用

3. 人口展望を考える際の観点

■ 「希望をかなえる」「持続可能な社会にする」ということをライフステージから整理し、15の観点到整理しました。人口展望を考える際にはこれらの観点を重視します

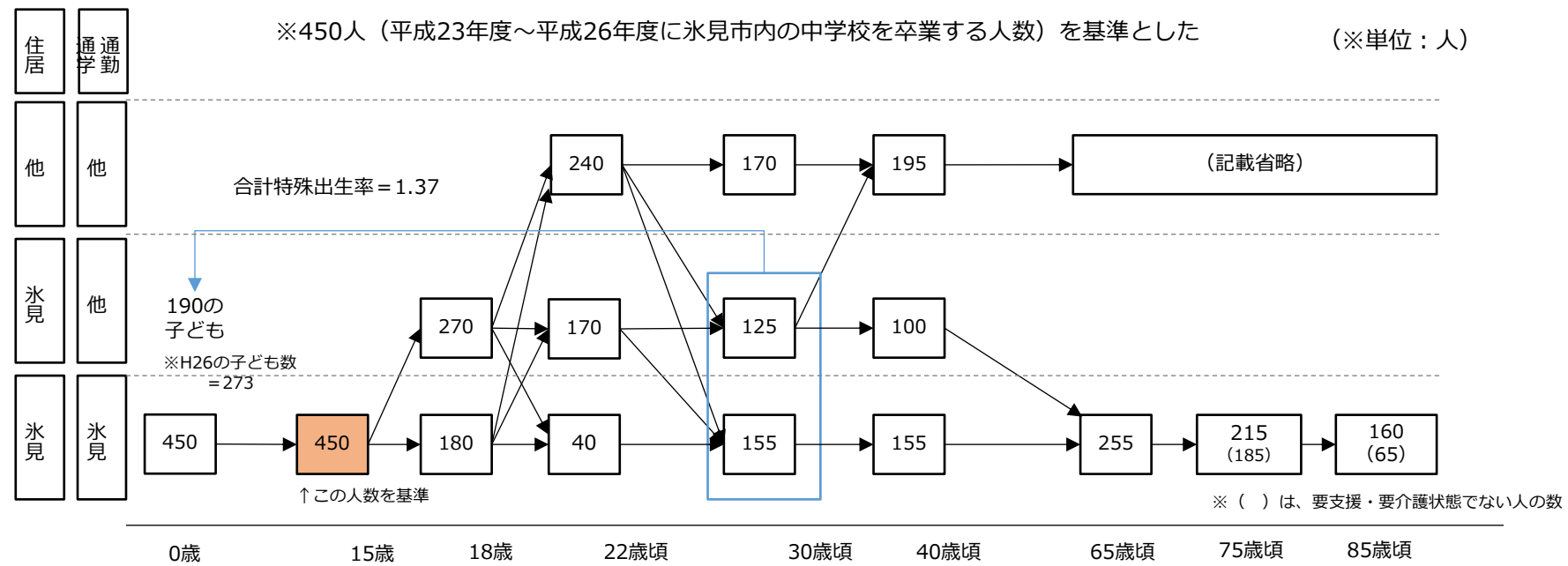
重視すること	ライフステージ	観点
<p>(1)希望をかなえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰ってくる (Uターン) ・住み続ける (定住) ・健康長寿で暮らす 	<p>就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす ①-2【ひとの流れ】他地域からの氷見高校入学者を増やす ②【ひとの流れ】20代のUターンを増やす ③【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす ④【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす ⑤【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす ⑥【子育て】子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす ⑦【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす ⑧【安心な暮らし】長生きをする&健康寿命を伸ばす
<p>(2)持続可能な社会にする (=寸胴型人口ピラミッドの実現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷見を選んでもらう (IJターン) ・地域の子どもの数を維持する 	<p>就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑨【ひとの流れ】20~40代のIJターンを増やす ⑩【しごと】20~40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす ⑪【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす ⑫【ひとの流れ】定年後のIJターンを増やす
	<p>誕生・入学・進学 (0・7・15歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑬【結婚】婚姻数を増やす ⑭【出産】出生数を増やす ⑮【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

①～⑮の観点を考えるに至る背景

【現状】氷見市の中学生が卒業後に、どこに居住・通勤通学をするか？

- 「2. 将来展望に必要な調査・分析」の各種統計等より、氷見市の中学生が卒業後、どこに居住・通勤通学をするかについてまとめました。この流れを把握することによって、ライフステージに応じた人口減少対策を考えることができるようになります
- ・ 詳細な説明は「(ご参考2) ライフステージを通じた人口移動の説明と15の観点を説明」に記載しています

ライフステージを通じた人口移動

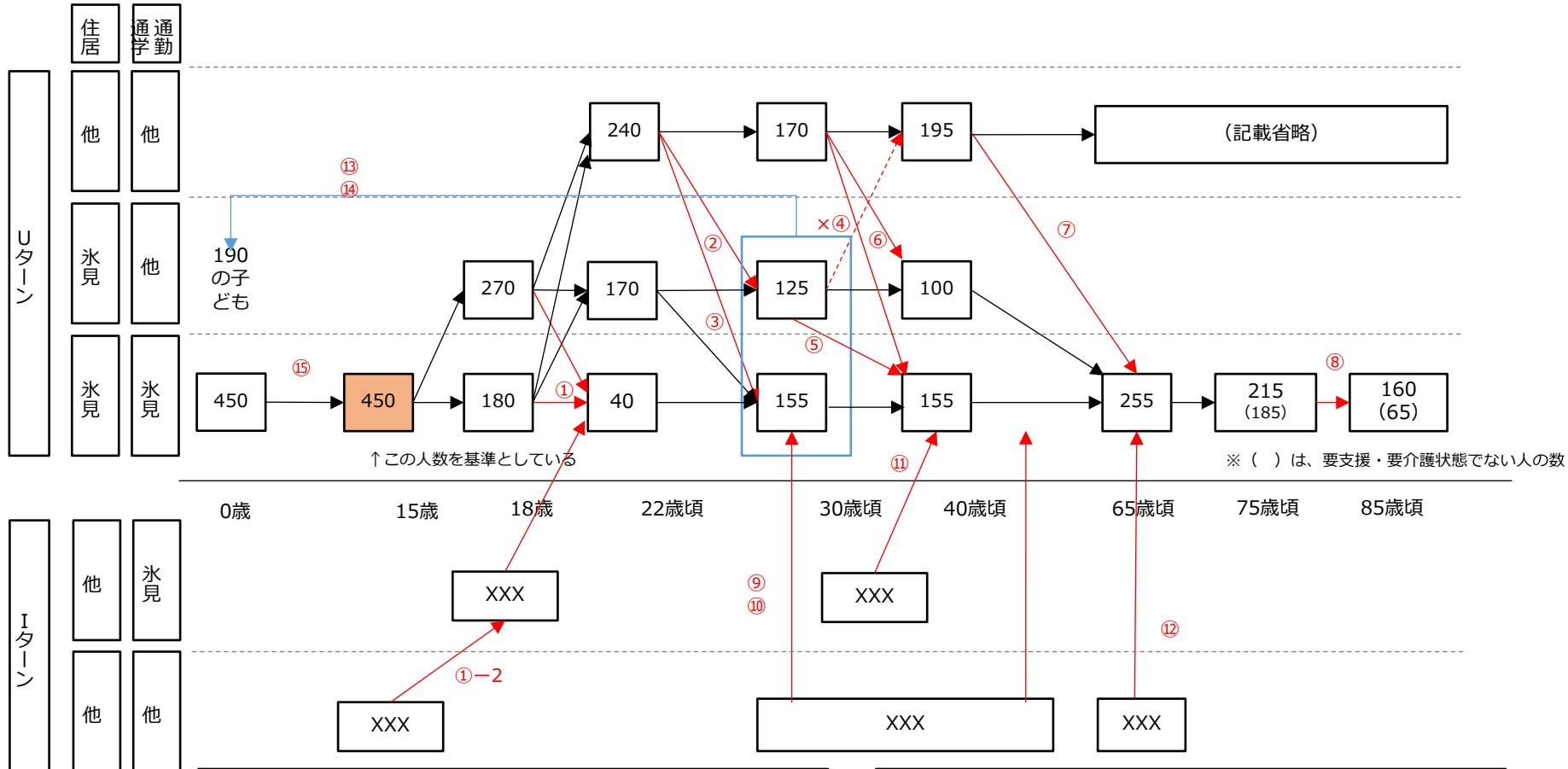


※氷見市教育委員会資料(平成23年度～平成26年度の中学校卒業生の進路)、resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』、S55～H22年国勢調査、とやま統計ワールド経由で取得した「平成11年富山県の人口」および「平成26年富山県の人口」、H25～H27ハローワーク氷見の資料、resas経由で取得した『人口動態調査』、公益財団法人 生命保健文化センター資料(元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報(平成26年7月)」総務省「人口推計月報(平成26年7月)」)、国立社会保障・人口問題研究所の氷見市の生残率、住民基本台帳のH26出生数をベースとしてヒアリング等を踏まえて推計を実施。数値については、一桁目を5か0とするレベルでの整理を実施。

①～⑮の観点を考えるに至る背景

【未来】現状を踏まえ、希望をかなえ、持続可能な社会にするための「氷見市15の観点」

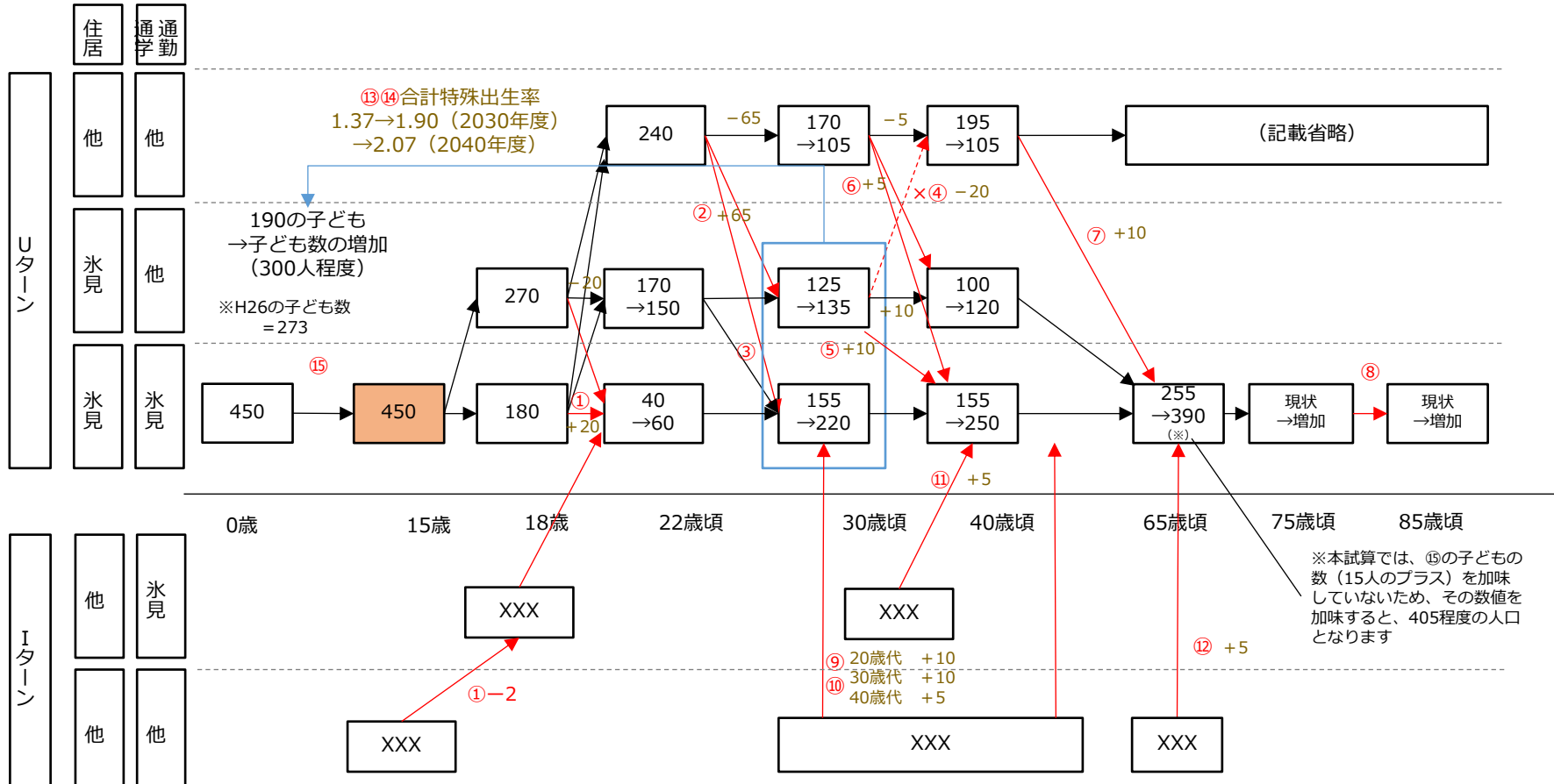
■ ライフステージに応じたイベントを①～⑮で整理しました。これらを人口展望を考えるにあたっての観点とします



- ① 【しごと】 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ①-2 【ひとの流れ】 他地域からの氷見高校入学者を増やす
- ② 【ひとの流れ】 20代のUターンを増やす
- ③ 【しごと】 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④ 【ひとの流れ】 氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤ 【しごと】 ④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥ 【子育て】 子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす
- ⑦ 【ひとの流れ】 定年後のUターンを増やす

- ⑧ 【安心な暮らし】 長生きをする&健康寿命を伸ばす
- ⑨ 【ひとの流れ】 20～40代のIターンを増やす
- ⑩ 【しごと】 20～40代のIターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪ 【ひとの流れ】 他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫ 【ひとの流れ】 定年後のIターンを増やす
- ⑬ 【結婚】 婚姻数を増やす
- ⑭ 【出産】 出生数を増やす
- ⑮ 【ひとの流れ】 未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

■ 前述の人の動きの変化を踏まえ、各種節目で氷見市への人口を増やし、最終的に現状の社会減をベースとして、150人の人口を積み増す結果を目指します



- ① 【しごと】 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ①-2 【ひとの流れ】 他地域からの氷見高校入学者を増やす
- ② 【ひとの流れ】 20代のUターンを増やす
- ③ 【しごと】 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④ 【ひとの流れ】 氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤ 【しごと】 ④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥ 【子育て】 子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす
- ⑦ 【ひとの流れ】 定年後のUターンを増やす

- ⑧ 【安心な暮らし】 長生きをする&健康寿命を伸ばす
- ⑨ 【ひとの流れ】 20~40代のIターンを増やす
- ⑩ 【しごと】 20~40代のIターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪ 【ひとの流れ】 他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫ 【ひとの流れ】 定年後のIターンを増やす
- ⑬ 【結婚】 婚姻数を増やす
- ⑭ 【出産】 出生数を増やす
- ⑮ 【ひとの流れ】 未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

4. 人口の将来展望に あたっての条件

推計パターンと条件

- 前述の考え方（以下表のパターン2）をベースとして、出生率を段階的に向上させ、かつ、社会純増を増やしたパターンを作成しました。このパターン別に人口推計を実施します。氷見市では、パターン6を人口目標といたします

推計パターンと条件	社会純増の条件	出生の条件	死亡の条件
1.社人研（国立社会保障・人口問題研究所）推計値	2020年に社会純減が半減	社人研の推計に準拠（女性子ども比率を利用して出生数を計算）	社人研の生残率に準拠
2.社人研究推計値で移動が半減しない場合（社人研の2020年の純移動率を2倍した値を利用）	2020年に社会純減が半減しない（社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用）		※健康寿命は直接人口に反映されないため、人口推計結果に含めない
3.2で出生率が段階的に向上 2040年以降は2.07で固定	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用	合計特殊出生率 2015年：1.37 2030年：1.90 2040年：2.07 ※途中の年は段階的に出生率が向上するものとする	
4.3に社会純増が+50人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用 +50人の社会純増		
5.3に社会純増が+100人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用 +100人の社会純増	※前述の15の観点のうち「⑬婚姻数を増やす」「⑭出生数を増やす」を満たした結果として達成されるものとする	
6.3に社会純増が+150人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用 +150人の社会純増		
7.3に社会純増が+200人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用 +200人の社会純増		

このパターンを人口目標といたします

※上記4～7の社会純増については、2016年度から数が増加することとして計算する

純移動数の設定と対応する観点

- 15の戦略を踏まえ、現状の純移動率に加える純移動数を設定します。氷見市の人口目標は、現状の純移動率に加えて150人の純増をした数といたします

一年あたり純移動数の増加（※純移動率に加える数値）

年齢	50人	100	150	200
	の 純増	人の 純増	人の 純増	人の 純増
0～4歳→5～9歳	5	10	15	20
5～9歳→10～14歳	0	0	0	0
10～14歳→15～19歳	0	0	0	0
15～19歳→20～24歳	0	0	0	0
20～24歳→25～29歳	25	50	75	100
25～29歳→30～34歳	6.7	13	20	27
30～34歳→35～39歳	6.7	13	20	27
35～39歳→40～44歳	1.7	3.3	5	6.7
40～44歳→45～49歳	0	0	0	0
45～49歳→50～54歳	0	0	0	0
50～54歳→55～59歳	0	0	0	0
55～59歳→60～64歳	0	0	0	0
60～64歳→65～69歳	5	10	15	20
65～69歳→70～74歳	0	0	0	0
70～74歳→75～79歳	0	0	0	0
75～79歳→80～84歳	0	0	0	0
80～84歳→85～89歳	0	0	0	0
85歳以上→90歳以上	0	0	0	0
合計	50	100	150	200

【観点との関連】

⑮【ひとの流れ】 未就学児の親子で氷見市に引っ越し方を増やす

①【しごと】 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす

※高卒の仕事に就いた瞬間に純増しないと想定されるので、ゼロとした（⑤と⑩に寄与することを想定）

②【ひとの流れ】 20代のUターンを増やす

③【しごと】 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす

④【ひとの流れ】 氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす

⑤【しごと】 ④のために、氷見市に子育てと 両立する仕事を増やす

⑥【子育て】 子育ての魅力で氷見市に引っ越し方を増やす

⑨【ひとの流れ】 20～40代のIJターンを増やす

⑩【しごと】 20～40代のIJターナー者が就きたい仕事を増やす

⑪【ひとの流れ】 他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす

⑦【ひとの流れ】 定年後のUターンを増やす

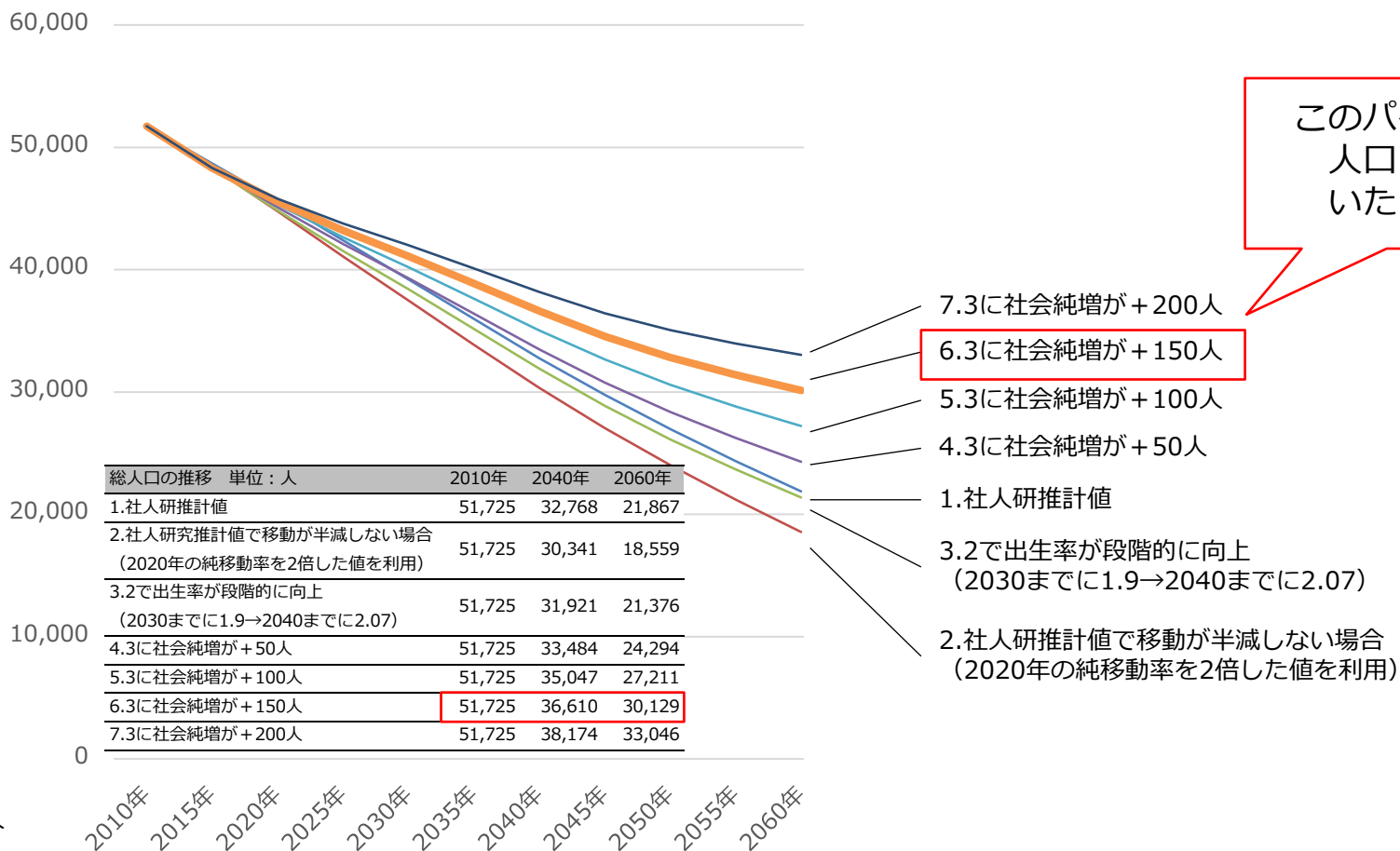
⑫【ひとの流れ】 定年後のIJターンを増やす

このパターンを
人口目標といたします

5. 推計パターン別人口推移

■ 氷見市では「6.3に社会純増が+150人」のパターン、つまり、2060年に30,129人を人口目標といたします

7パターンの人口推計結果



単位：人

■ 人口の推計結果の表は以下の通りです

7パターン的人口推計結果

総人口の推移 単位：人	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.社人研推計値	51,725	48,684	45,621	42,411	39,207	35,976	32,768	29,760	26,971	24,358	21,867
2.社人研究推計値で移動が半減しない場合 (2020年の純移動率を2倍した値を利用)	51,725	48,370	44,759	41,085	37,485	33,863	30,341	27,055	24,018	21,204	18,559
3.2で出生率が段階的に向上 (2030までに1.9→2040までに2.07)	51,725	48,306	44,851	41,534	38,394	35,164	31,921	28,872	26,132	23,671	21,376
4.3に社会純増が+50人	51,725	48,306	45,088	42,095	39,294	36,398	33,484	30,764	28,361	26,246	24,294
5.3に社会純増が+100人	51,725	48,306	45,324	42,655	40,194	37,633	35,047	32,655	30,590	28,820	27,211
6.3に社会純増が+150人	51,725	48,306	45,561	43,215	41,094	38,867	36,610	34,546	32,819	31,395	30,129
7.3に社会純増が+200人	51,725	48,306	45,797	43,775	41,994	40,102	38,174	36,437	35,048	33,969	33,046

このパターンを
人口目標といたします

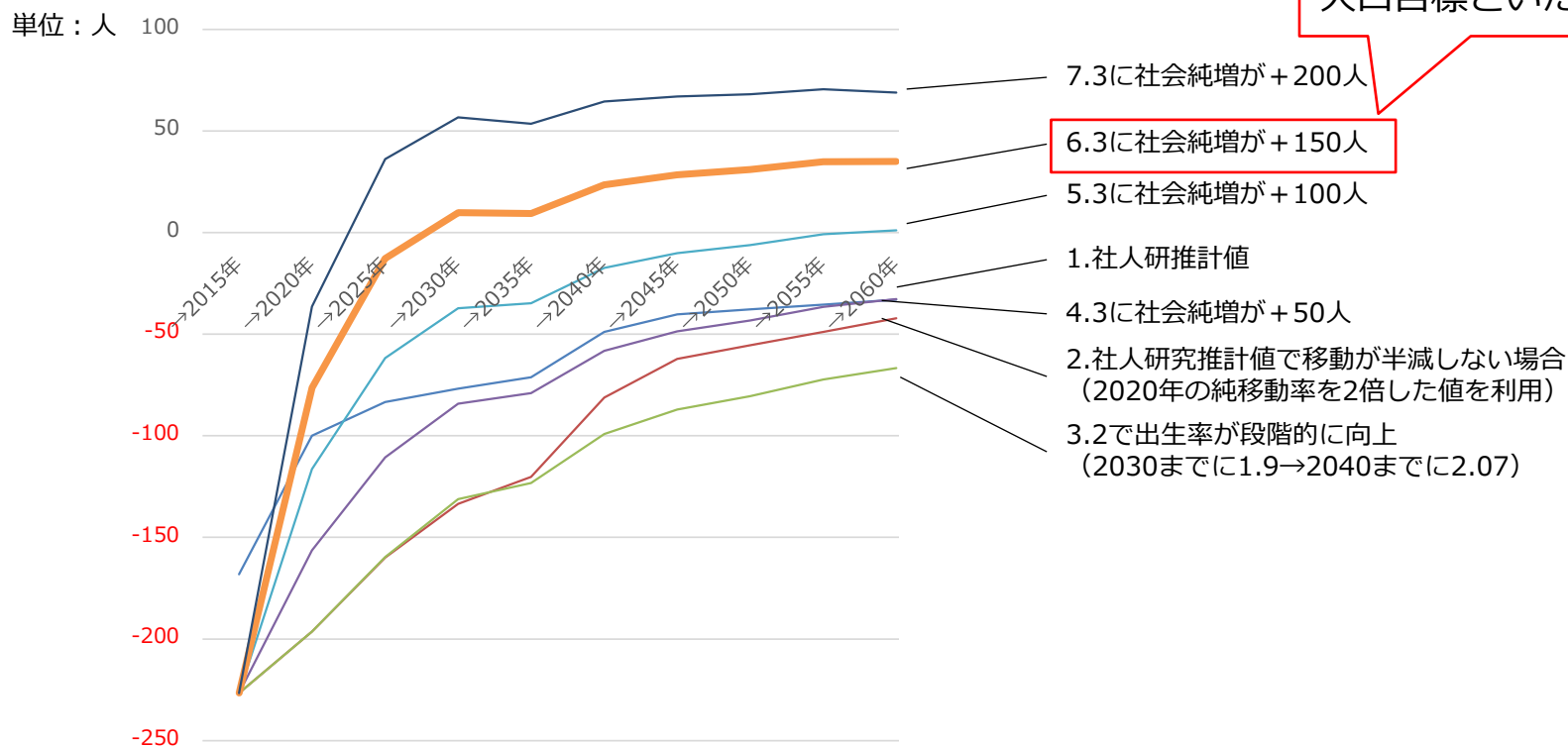
※2010年の人口について、resas経由で取得した社人研に基づいた数値を利用。社人研の数値（全体）は51,726人であるが、上記は51,725人である。その理由は「推計時に男性と女性の数を計算し、その結果を合算するという計算方法をとっており、その小数点の四捨五入をした影響」と考えられる。実際に社人研の数値の男女の人数を各々足した場合の合計値は51,725人となっており、51,726人とはならない

※パターン3以降についても、推計時に男性と女性の数を計算し、その結果を合算するという計算方法をとっているため、51,725人となっている

※2015年の人口の違いは、1・2と3以降については、出生率の考え方の違いであり、1と2の違いは社会減（とそれに伴う出生数の減少）によるものである

■ 年間社会増減数について、パターン6は2030年頃に純増に転じます

7パターンの年間社会純増減数の推移 (5年間の推移)



このパターンを人口目標といたします

※人数は、推計結果を5で割った数を記載 (計算便宜上5年単位の集計しかできず、5年単位を1年単位に修正するため)
 ※増減「率」を用いて推計を行っているため、社会純増減数がゼロに近づく (人口減少によって母数が減るため)
 ※パターン4~7の推計では、母数が減る一方で毎年同数の社会純増があるため、社会純増減数が増加する
 ※パターン7において2030→2035の数が減っている理由は、現在の子ども数が少ないため (2035年頃に進学時に差しかかるが、そもそもの数が少ないため、流出数も少なくなる)

■ パターン6と7は早期に社会純増となりますが、社会純増になる = 進学等で外部に引越した人材がUターンで100%戻ってきたとしてもカバーできない数の社会流入が必要です。そのためには、IJターン者を呼び込むことが必須となります

7パターンの年間社会純増減数の推移

社会純増減の推移 単位：人	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
1. 社人研推計値	-168	-100	-83	-77	-71	-49	-40	-38	-35	-33
2. 社人研究推計値で移動が半減しない場合 (2020年の純移動率を2倍した値を利用)	-227	-196	-160	-133	-120	-81	-62	-55	-49	-42
3. 2で出生率が段階的に向上 (2030までに1.9→2040までに2.07)	-227	-196	-160	-131	-123	-99	-87	-80	-72	-67
4. 3に社会純増が+50人	-227	-156	-111	-84	-79	-58	-49	-43	-37	-33
5. 3に社会純増が+100人	-227	-116	-62	-37	-35	-17	-10	-6	-1	1
6. 3に社会純増が+150人	-227	-76	-13	10	9	24	28	31	35	35
7. 3に社会純増が+200人	-227	-36	36	57	54	64	67	68	71	69

このパターンを人口目標といたします

※人数は、推計結果を5で割った数を記載（計算便宜上5年単位の集計しかできず、5年単位を1年単位に修正するため）

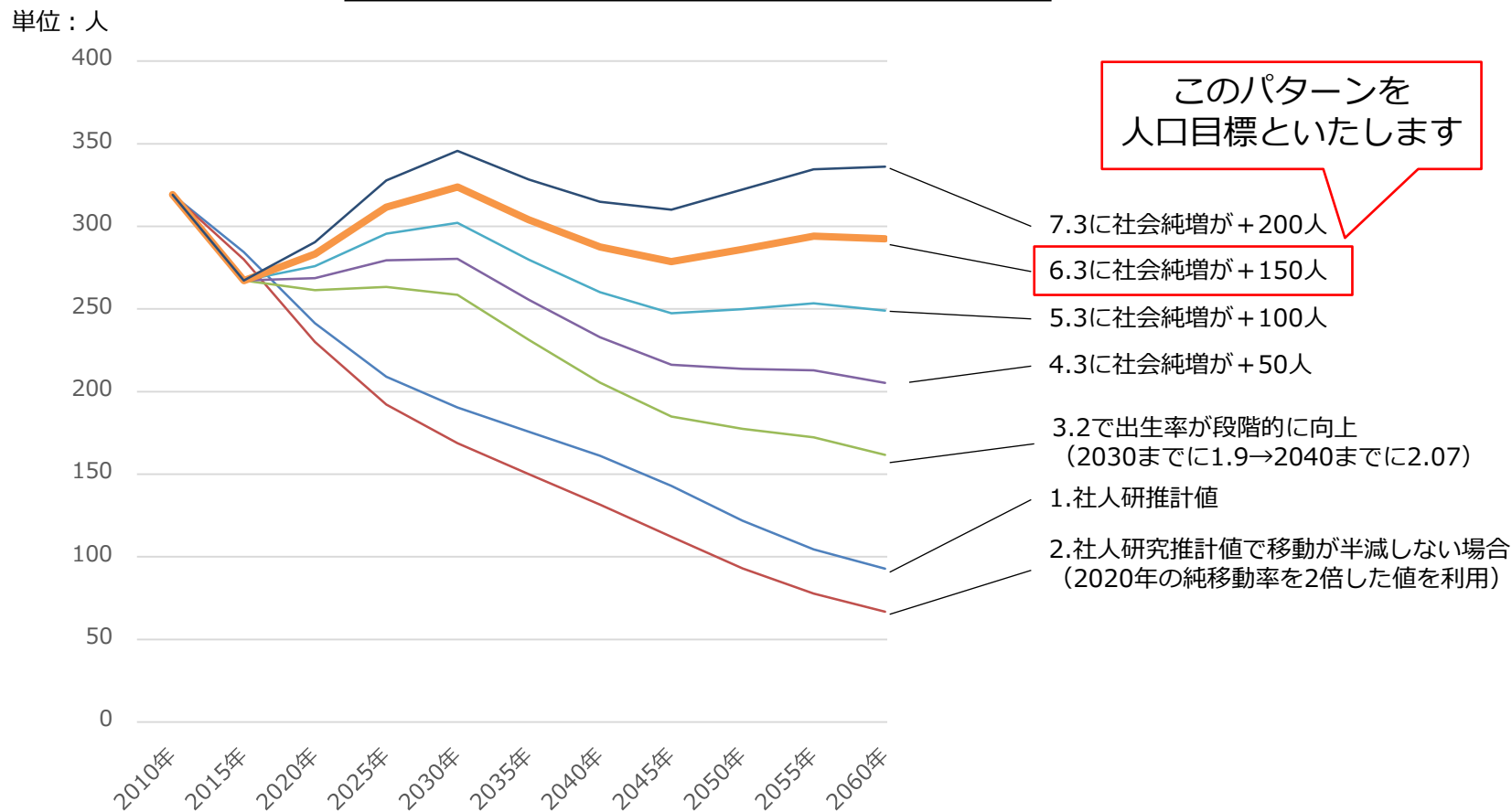
※増減「率」を用いて推計を行っているため、社会純増減数がゼロに近づく（人口減少によって母数が減るため）

※パターン4～7の推計では、母数が減る一方で毎年同数の社会純増があるため、社会純増減数が増加する

※パターン7において2030→2035の数が減っている理由は、現在の子ども数が少ないため（2035年頃に進学時に差しかかるが、そもそもの数が少ないため、流出数も少なくなる）

■ パターン6の場合、将来にわたり、現状と比べて子ども数がほぼ横ばい～増加します

7パターンの人口推計結果（子ども数の推移）



※上記子ども数は、0～4歳の人口を1/5とした数を記載

※2030年まで子どもの数が増える理由は出生率の向上によるもの。その後、全パターンで子どもの数が一旦低下する理由は、親世代の人口が少なくなるため（2045年は、2015年の新生児が30歳になる年代である）

人口の推計結果（子ども数の表）

■ パターン6の場合、将来にわたり、子ども数が300人程度となります

7パターン的人口推計結果（子ども数の推移）

新生児数の推移 単位：人	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.社人研推計値	319	284	241	209	190	176	161	143	122	104	93
2.社人研究推計値で移動が半減しない場合 (2020年の純移動率を2倍した値を利用)	319	280	230	192	169	150	132	112	93	78	67
3.2で出生率が段階的に向上 (2030までに1.9→2040までに2.07)	319	267	261	263	258	231	205	185	178	172	162
4.3に社会純増が+50人	319	267	269	279	280	256	233	216	214	213	205
5.3に社会純増が+100人	319	267	276	296	302	280	260	247	250	253	249
6.3に社会純増が+150人	319	267	283	312	324	304	288	279	286	294	293
7.3に社会純増が+200人	319	267	290	328	346	328	315	310	322	335	336

このパターンを人口目標といたします

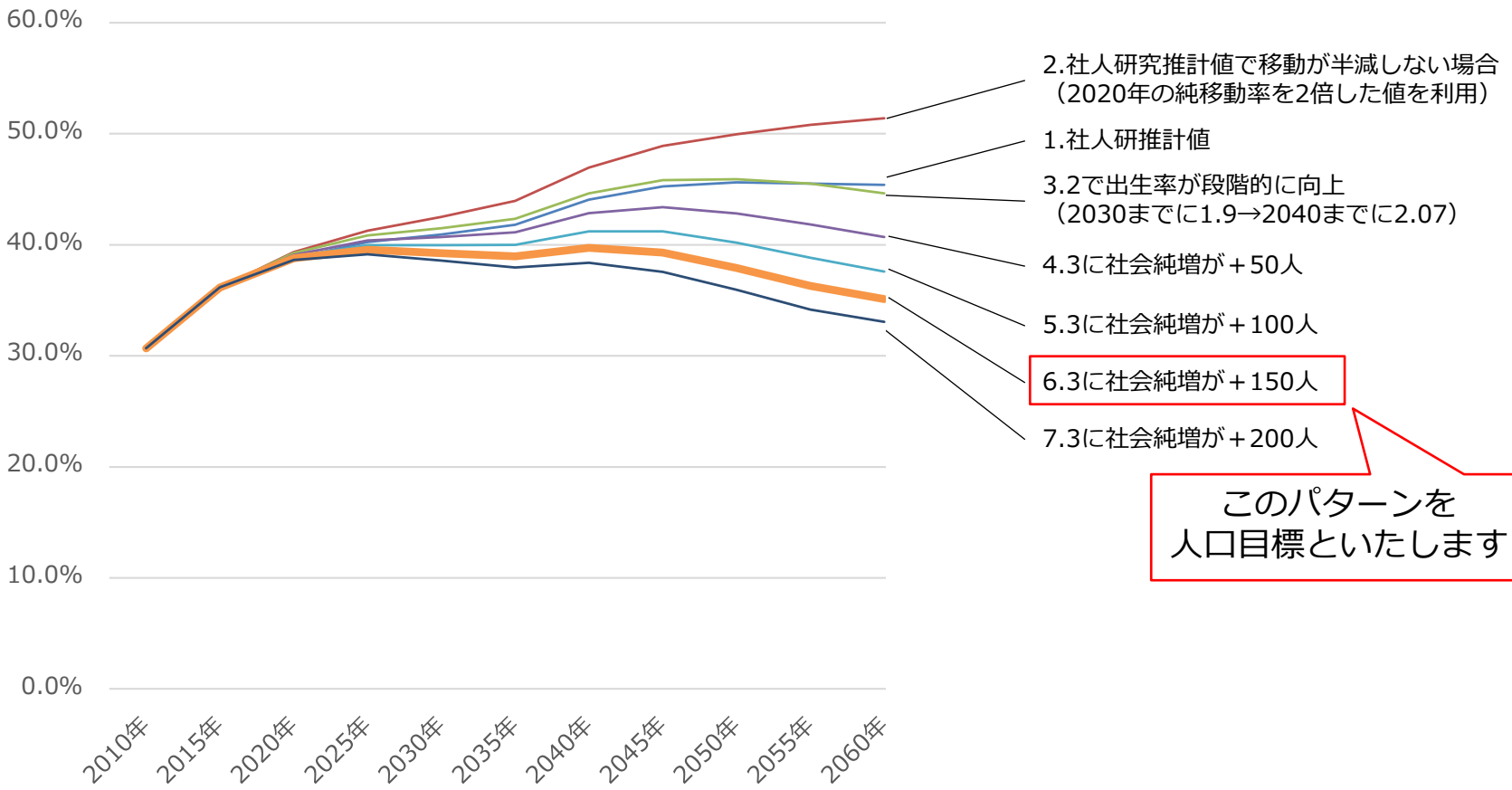
※上記子ども数は、0～4歳の人口を1/5とした数を記載

※住民基本台帳をベースとした平成26年度の子ども数は273人であり、おおよそ推計値と一致している

※社人研（パターン1と2）とその他で2015年の子ども数が違うのは、推計条件の違い。社人研は女性子ども比率という数値をベースとして人口推計を行っている

■ どのパターンにおいても2020年まで高齢率（65歳以上）が増加しますが、パターン6の場合、2060年には2020年の高齢化率を下回ります

7パターンの人口推計結果（高齢率：65歳以上の推移）



このパターンを人口目標といたします

■ 65歳以上の高齢化率の表は以下の通りです

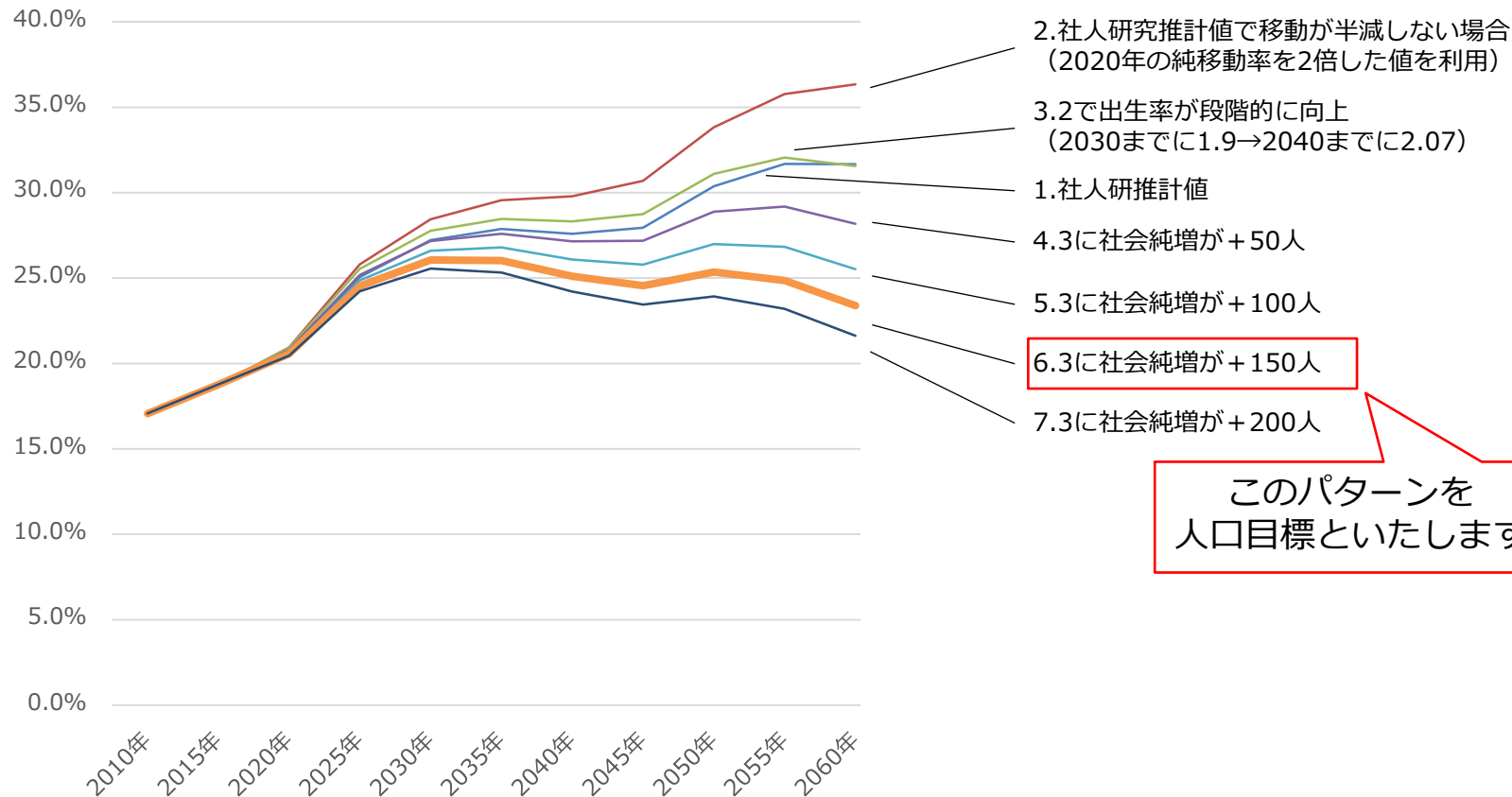
7パターン的人口推計結果（高齢率：65歳以上の推移）

高齢率（65歳以上）の推移	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.社人研推計値	30.7%	35.9%	38.8%	40.2%	40.9%	41.8%	44.1%	45.3%	45.6%	45.5%	45.4%
2.社人研究推計値で移動が半減しない場合 (2020年の純移動率を2倍した値を利用)	30.7%	36.1%	39.3%	41.3%	42.5%	44.0%	47.0%	48.9%	50.0%	50.8%	51.4%
3.2で出生率が段階的に向上 (2030までに1.9→2040までに2.07)	30.7%	36.2%	39.3%	40.8%	41.5%	42.3%	44.6%	45.8%	45.9%	45.5%	44.6%
4.3に社会純増が+50人	30.7%	36.2%	39.1%	40.4%	40.7%	41.1%	42.8%	43.4%	42.8%	41.8%	40.7%
5.3に社会純増が+100人	30.7%	36.2%	38.9%	40.0%	40.0%	40.0%	41.2%	41.2%	40.2%	38.8%	37.6%
6.3に社会純増が+150人	30.7%	36.2%	38.8%	39.6%	39.3%	39.0%	39.7%	39.3%	37.9%	36.3%	35.1%
7.3に社会純増が+200人	30.7%	36.2%	38.6%	39.1%	38.6%	38.0%	38.4%	37.6%	35.9%	34.2%	33.0%

このパターンを人口目標といたします

- どのパターンにおいても2030年まで高齢率（75歳以上）が増加しますが、パターン6の場合は2030年をピークに減少に転じます

7パターンの人口推計結果（高齢率：75歳以上の推移）



■ 75歳以上の高齢化率の表は以下の通りです

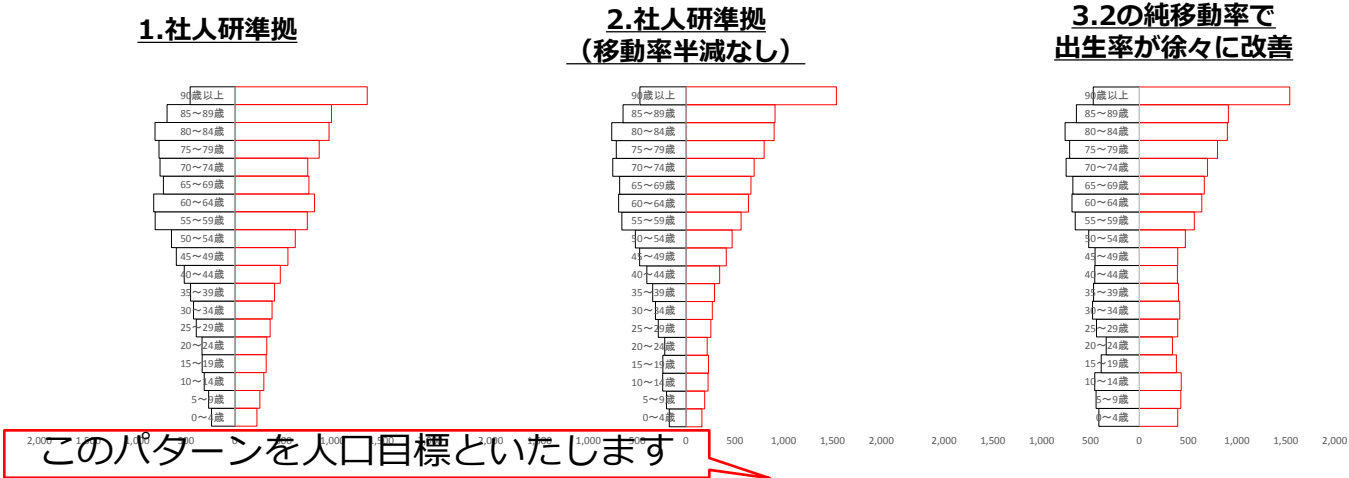
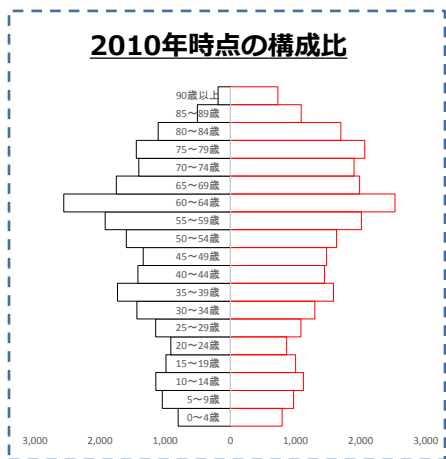
7パターン的人口推計結果（高齢率：75歳以上の推移）

高齢率（75歳以上）の推移	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.社人研推計値	17.1%	18.6%	20.6%	25.1%	27.2%	27.9%	27.6%	27.9%	30.4%	31.7%	31.7%
2.社人研究推計値で移動が半減しない場合 （2020年の純移動率を2倍した値を利用）	17.1%	18.7%	20.9%	25.8%	28.4%	29.6%	29.8%	30.7%	33.8%	35.8%	36.3%
3.2で出生率が段階的に向上 （2030までに1.9→2040までに2.07）	17.1%	18.8%	20.9%	25.5%	27.8%	28.5%	28.3%	28.7%	31.1%	32.0%	31.6%
4.3に社会純増が+50人	17.1%	18.8%	20.8%	25.2%	27.2%	27.6%	27.1%	27.2%	28.9%	29.2%	28.2%
5.3に社会純増が+100人	17.1%	18.8%	20.7%	24.9%	26.6%	26.8%	26.1%	25.8%	27.0%	26.8%	25.5%
6.3に社会純増が+150人	17.1%	18.8%	20.6%	24.5%	26.1%	26.0%	25.1%	24.5%	25.3%	24.9%	23.4%
7.3に社会純増が+200人	17.1%	18.8%	20.5%	24.2%	25.5%	25.3%	24.2%	23.4%	23.9%	23.2%	21.6%

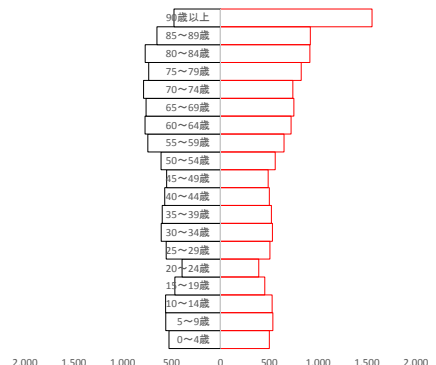
このパターンを人口目標といたします

■ 各パターンの2060年時の人口構成比は、パターン2→パターン7になるにつれて逆三角形から円柱型となります

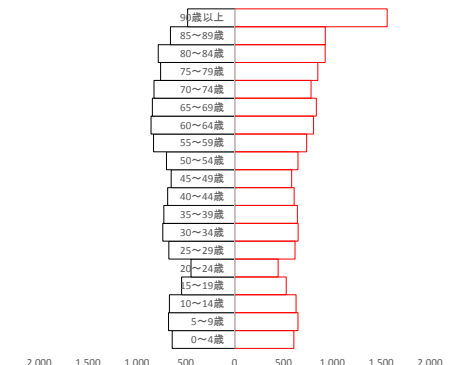
- ・ 20代前半の人口構成は少ないですが、これは進学等によって一時的に氷見市を離れる人を想定しています



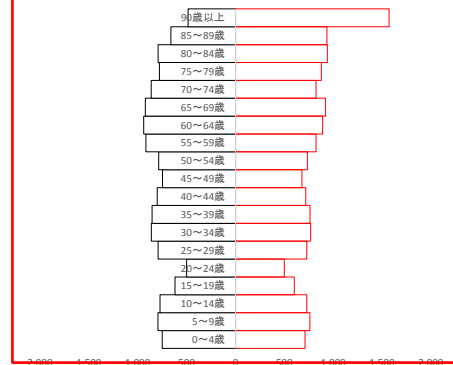
4.3に加えて年間50人の社会純増をプラス



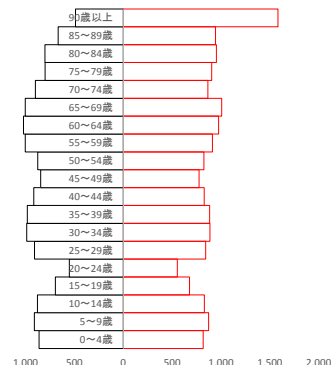
5.3に加えて年間100人の社会純増をプラス



6.3に加えて年間150人の社会純増をプラス



7.3に加えて年間200人の社会純増をプラス



※社人研の推計自体は2040年までであるが、社人研の推計に準拠した計算方法で2060年の人口構成比を算出。各種条件については、2040年時点の数値を利用
 ※上記のグラフは、一番下が0～4歳、一番上が90歳以上で5歳刻みの人口を棒グラフにしたものであり、左が男性の人口、右が女性の人口を記載

(参考) 推計の詳細等

推計条件の考え方

- 国の推計（社人研の推計）は「人口の純移動率が2020年に半減する」という前提で推計されています。したがって、各種人口増加施策（社会増を目的とした施策）を考えるにあたっては、「人口の純移動率が2020年に半減する」という前提が無い状態をベースとして推計を考えなければならないと考えます
 - ・ 全国的なトレンドが東京一極集中である中で、地方の各市町村で純移動率が半分になるということは、何らかの政策・施策を講じた結果であると考えられるためです

社人研の推計

社人研の推計
※2020年に人口移動が半分になるという前提

人口ビジョン推計の ベースとしたい考え方

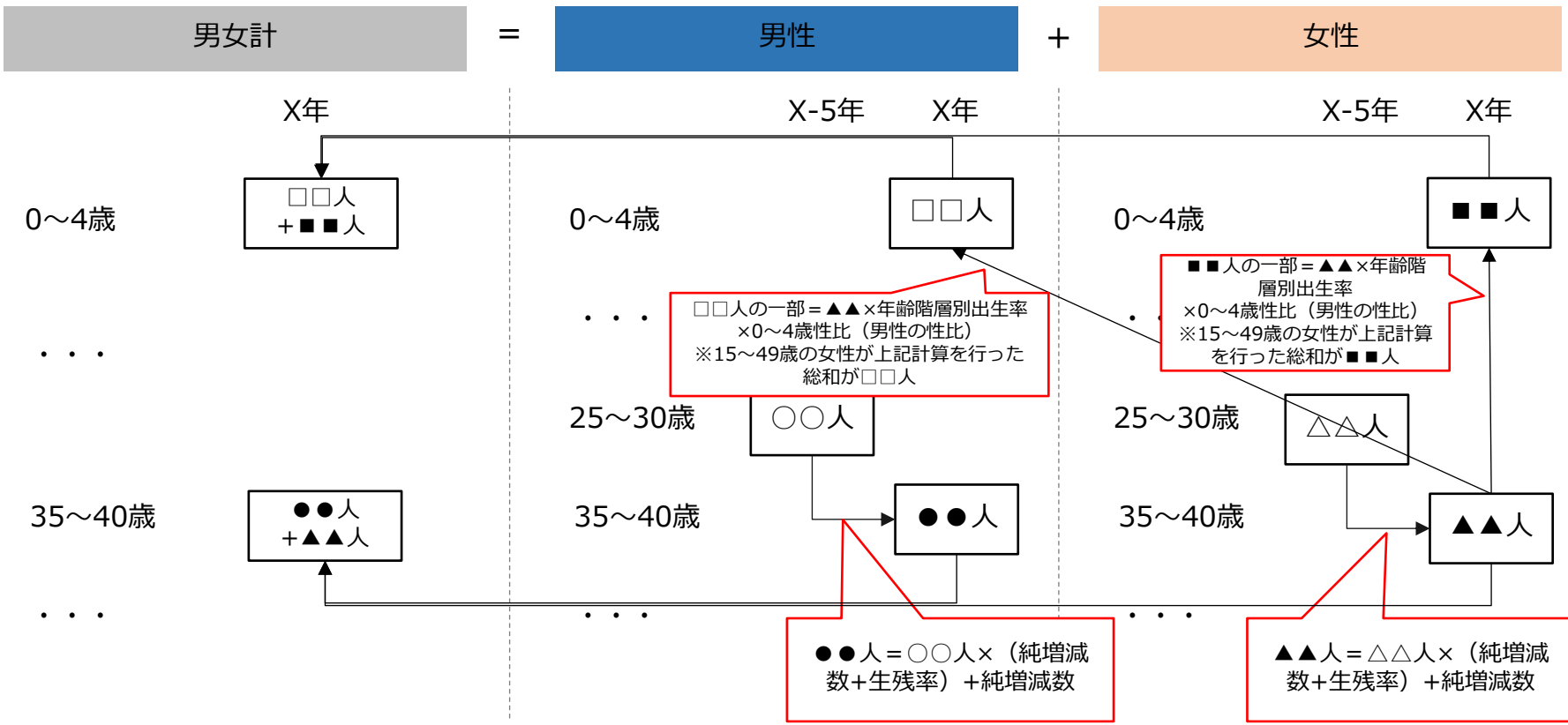
社人研の推計のうち、
2020年に人口移動が半分にならないという前提を置く
※2015→2020の人口移動率の2倍を純移動率として利用する

当該部分（人口移動が半分になる前提で計算した社会増分）の人口を減らしたものをベースとします
したがって、人口ビジョンを考える際のベースとなる推計結果は、社人研の推計結果よりも少ない人口となります

■ 自然増減（出生率、0～4歳性比、生残率）、社会増減（純増減率や純増減数）を考慮した上で人口を推計します

- ・ 5歳年齢区分を一つのまとまりとして計算します
- ・ 男女別に推計し、その結果を合計したものが人口となります

人口推計の方法

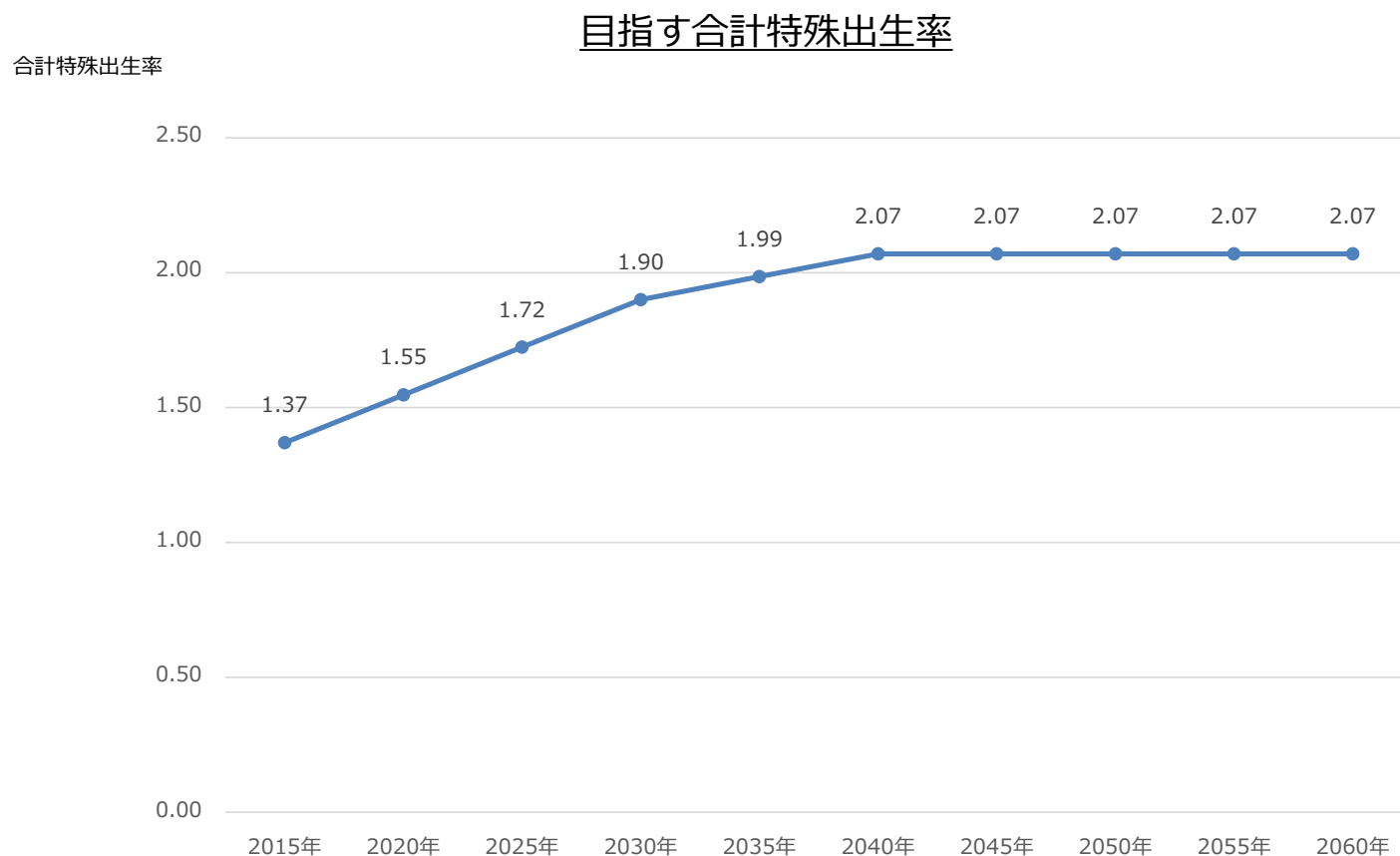


※社人研推計の場合には、出生率ではなく、15～49歳の女性の人口に「女子子ども比率」を乗じた数が0～4歳の出生数として計算します

合計特殊出生率の設定

■ 合計特殊出生率について、2015年に1.37から2030年にかけて1.90に段階的に上昇し、2040年までに2.07を達成できる水準を目指します

- ・ 1.90は県民希望出生率、2.07は人口置換水準です



0～4歳性比の設定

- 新しく生まれてくる男性と女性の比率について、社人研の推計と同様、社人研の0～4歳性比を利用して推計しました。2045年以降の推計は、2040年の値を利用しました



生残率の設定

- 生残率について、社人研の推計と同様、社人研の0～4歳性比を利用して推計しました。2045年以降の推計は、2040年の値を利用しました
 - ・ 社人研の推計では、年々生残率が上昇しています

推計に利用する生残率

生残率・男

	2010年→	2015年→	2020年→	2025年→	2030年→	2035年→
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～4歳→5～9歳	0.99913	0.99925	0.99933	0.99940	0.99946	0.99951
5～9歳→10～14歳	0.99938	0.99945	0.99951	0.99955	0.99959	0.99963
10～4歳→15～19歳	0.99937	0.99943	0.99947	0.99950	0.99953	0.99955
15～19歳→20～24歳	0.99725	0.99746	0.99763	0.99779	0.99792	0.99805
20～24歳→25～29歳	0.99635	0.99655	0.99672	0.99689	0.99704	0.99718
25～29歳→30～34歳	0.99671	0.99686	0.99697	0.99707	0.99716	0.99723
30～34歳→35～39歳	0.99588	0.99609	0.99625	0.99639	0.99651	0.99662
35～39歳→40～44歳	0.99339	0.99376	0.99407	0.99434	0.99459	0.99481
40～44歳→45～49歳	0.99053	0.99106	0.99148	0.99185	0.99218	0.99246
45～49歳→50～54歳	0.98550	0.98627	0.98688	0.98741	0.98786	0.98826
50～54歳→55～59歳	0.97742	0.97859	0.97950	0.98029	0.98097	0.98156
55～59歳→60～64歳	0.96619	0.96784	0.96908	0.97014	0.97103	0.97179
60～64歳→65～69歳	0.94708	0.94959	0.95152	0.95318	0.95462	0.95588
65～69歳→70～74歳	0.92051	0.92501	0.92851	0.93155	0.93421	0.93657
70～74歳→75～79歳	0.87060	0.87873	0.88505	0.89045	0.89509	0.89910
75～79歳→80～84歳	0.77817	0.79164	0.80227	0.81158	0.81975	0.82695
80～84歳→85～89歳	0.63400	0.65343	0.66890	0.68268	0.69500	0.70606
85歳以上→90歳以上	0.36821	0.38397	0.39695	0.40872	0.41942	0.42916

生残率・女

	2010年→	2015年→	2020年→	2025年→	2030年→	2035年→
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～4歳→5～9歳	0.99934	0.99943	0.99948	0.99953	0.99956	0.99960
5～9歳→10～14歳	0.99974	0.99977	0.99979	0.99980	0.99982	0.99982
10～4歳→15～19歳	0.99956	0.99960	0.99962	0.99964	0.99965	0.99966
15～19歳→20～24歳	0.99886	0.99892	0.99897	0.99902	0.99906	0.99909
20～24歳→25～29歳	0.99836	0.99845	0.99853	0.99860	0.99867	0.99873
25～29歳→30～34歳	0.99807	0.99819	0.99829	0.99837	0.99846	0.99853
30～34歳→35～39歳	0.99752	0.99768	0.99780	0.99791	0.99801	0.99810
35～39歳→40～44歳	0.99665	0.99684	0.99699	0.99712	0.99724	0.99734
40～44歳→45～49歳	0.99543	0.99568	0.99587	0.99603	0.99616	0.99628
45～49歳→50～54歳	0.99356	0.99389	0.99412	0.99431	0.99447	0.99459
50～54歳→55～59歳	0.98912	0.98970	0.99016	0.99056	0.99091	0.99121
55～59歳→60～64歳	0.98423	0.98506	0.98572	0.98630	0.98681	0.98726
60～64歳→65～69歳	0.98307	0.98408	0.98480	0.98541	0.98591	0.98632
65～69歳→70～74歳	0.96742	0.96943	0.97097	0.97228	0.97340	0.97437
70～74歳→75～79歳	0.93457	0.93849	0.94149	0.94402	0.94616	0.94798
75～79歳→80～84歳	0.88782	0.89526	0.90084	0.90550	0.90939	0.91268
80～84歳→85～89歳	0.79299	0.80783	0.81920	0.82887	0.83711	0.84418
85歳以上→90歳以上	0.48122	0.49629	0.50834	0.51895	0.52834	0.53665

※生残率： t 年の男女 s 、年齢 $x \sim x+4$ 歳の人口が、5年後の $t+5$ 年に $x+5 \sim x+9$ 歳として生き残っている率

純移動率の設定

■ 純移動率について、社人研の推計を参考とし、2015→2020の純移動率を2倍したものを利用いたします

- 社人研の推計条件が2020年に純移動率が半減と記載されているため、半減していない純移動率を算出するために、2020年の純移動率を2倍したものを利用いたします

推計に利用する純移動率

純移動率・男

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.00471	0.00139	0.00243	0.00316	0.00381	0.00430
5～9歳→10～14歳	0.00071	-0.00021	0.00082	0.00119	0.00155	0.00185
10～4歳→15～19歳	-0.12330	-0.08886	-0.08897	-0.08936	-0.08941	-0.08960
15～19歳→20～24歳	-0.16205	-0.10735	-0.10698	-0.10768	-0.10882	-0.10920
20～24歳→25～29歳	0.08544	0.07465	0.06944	0.06972	0.08067	0.08269
25～29歳→30～34歳	-0.01933	-0.00918	-0.00804	-0.00825	-0.00845	-0.00858
30～34歳→35～39歳	-0.02705	-0.01932	-0.01846	-0.01861	-0.01875	-0.01896
35～39歳→40～44歳	-0.00733	-0.00648	-0.00592	-0.00607	-0.00620	-0.00625
40～44歳→45～49歳	-0.01172	-0.00944	-0.00940	-0.00942	-0.00949	-0.00943
45～49歳→50～54歳	-0.00587	-0.00535	-0.00548	-0.00560	-0.00555	-0.00556
50～54歳→55～59歳	-0.00516	-0.00445	-0.00412	-0.00460	-0.00453	-0.00405
55～59歳→60～64歳	-0.00734	-0.00646	-0.00472	-0.00433	-0.00509	-0.00483
60～64歳→65～69歳	-0.00925	-0.00877	-0.00821	-0.00788	-0.00770	-0.00814
65～69歳→70～74歳	-0.00027	-0.00037	-0.00134	-0.00047	0.00145	0.00201
70～74歳→75～79歳	-0.01903	-0.01530	-0.01251	-0.01568	-0.01483	-0.01436
75～79歳→80～84歳	0.00465	0.00380	0.00155	0.00449	0.00081	0.00288
80～84歳→85～89歳	-0.02026	-0.01571	-0.01750	-0.01976	-0.01420	-0.02075
85歳以上→90歳以上	0.00279	0.01269	0.00633	-0.00098	-0.00345	0.00471

純移動率・女

	2010年→ 2015年	2015年→ 2020年	2020年→ 2025年	2025年→ 2030年	2030年→ 2035年	2035年→ 2040年
0～4歳→5～9歳	0.00969	0.00588	0.00684	0.00773	0.00850	0.00906
5～9歳→10～14歳	-0.00961	-0.00854	-0.00782	-0.00761	-0.00758	-0.00762
10～4歳→15～19歳	-0.10686	-0.07615	-0.07626	-0.07648	-0.07648	-0.07672
15～19歳→20～24歳	-0.15154	-0.09743	-0.09645	-0.09670	-0.09753	-0.09791
20～24歳→25～29歳	0.00791	0.01650	0.01715	0.01775	0.01824	0.01795
25～29歳→30～34歳	-0.04491	-0.02924	-0.02704	-0.02724	-0.02753	-0.02780
30～34歳→35～39歳	-0.03166	-0.02341	-0.02214	-0.02210	-0.02220	-0.02238
35～39歳→40～44歳	-0.00874	-0.00755	-0.00679	-0.00668	-0.00662	-0.00661
40～44歳→45～49歳	-0.00624	-0.00557	-0.00534	-0.00530	-0.00530	-0.00524
45～49歳→50～54歳	-0.00628	-0.00560	-0.00563	-0.00564	-0.00562	-0.00564
50～54歳→55～59歳	-0.00117	-0.00145	-0.00096	-0.00095	-0.00073	-0.00036
55～59歳→60～64歳	-0.01369	-0.01062	-0.01018	-0.01005	-0.01012	-0.01013
60～64歳→65～69歳	0.00172	0.00042	0.00083	0.00148	0.00198	0.00188
65～69歳→70～74歳	0.00411	0.00272	0.00225	0.00293	0.00407	0.00498
70～74歳→75～79歳	-0.00312	-0.00282	-0.00157	-0.00321	-0.00257	-0.00185
75～79歳→80～84歳	-0.01834	-0.01371	-0.01417	-0.01193	-0.01510	-0.01426
80～84歳→85～89歳	-0.03788	-0.02808	-0.02862	-0.02990	-0.02577	-0.03114
85歳以上→90歳以上	0.04203	0.03901	0.03401	0.02685	0.02661	0.03568

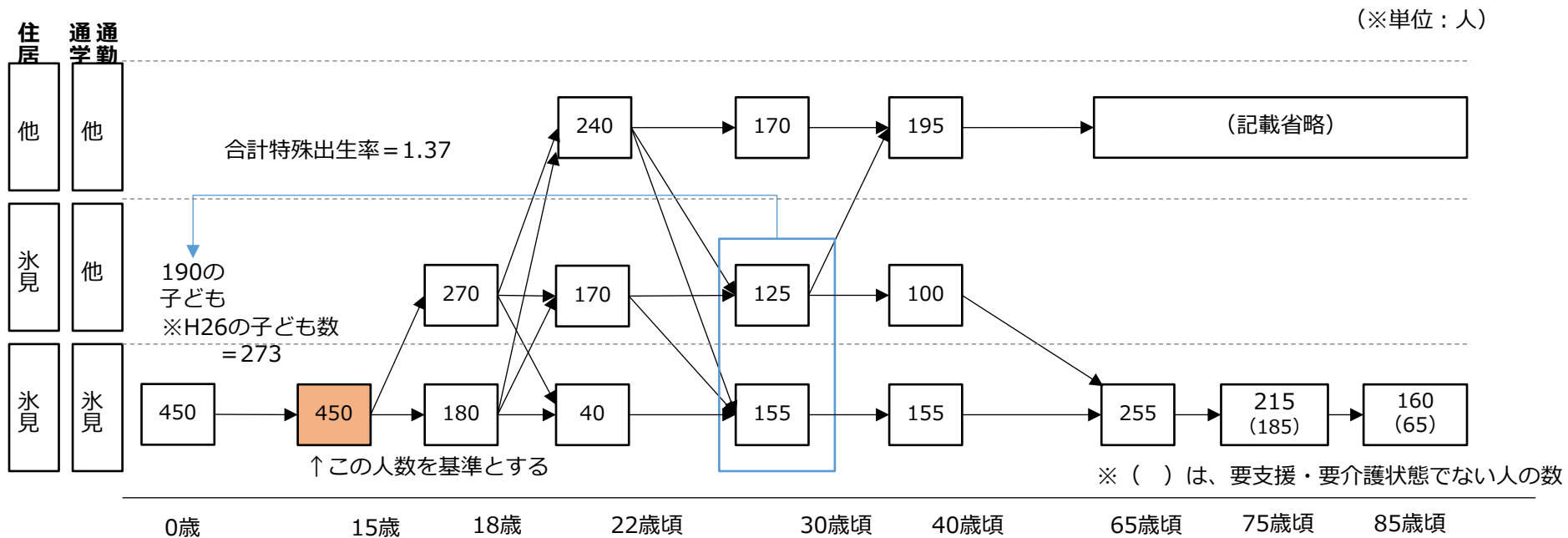
当該純移動率の2倍を純移動率として推計

※純移動率：t年の男女s、年齢x～x+4歳の人口に関するt→t+5年の5年間の純移動数（転入超過数）を、期首（t年）の男女s、年齢x～x+4歳の人口で割った値

（出典）国立社会保障・人口問題研究所 氷見市の生残率より。説明は「将来の生残率、純移動率、子ども女性比、0-4歳性別について」より

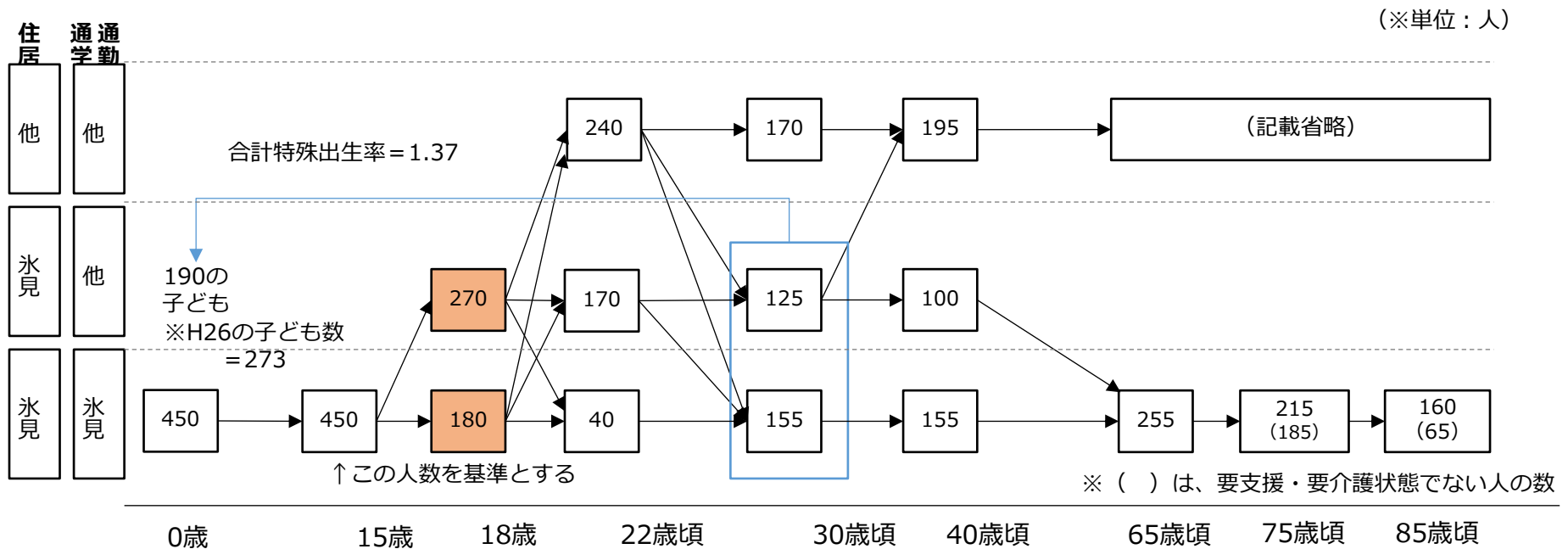
(参考2) ライフステージを通じた
人口移動の説明と15の観点の説明

氷見市の中学生**450人**が、卒業しました。



450人のうち**180人**は、氷見に住みながら、氷見高校へ。

のこり**270人**は、氷見に住みながら、市外の高校へ進学しました。

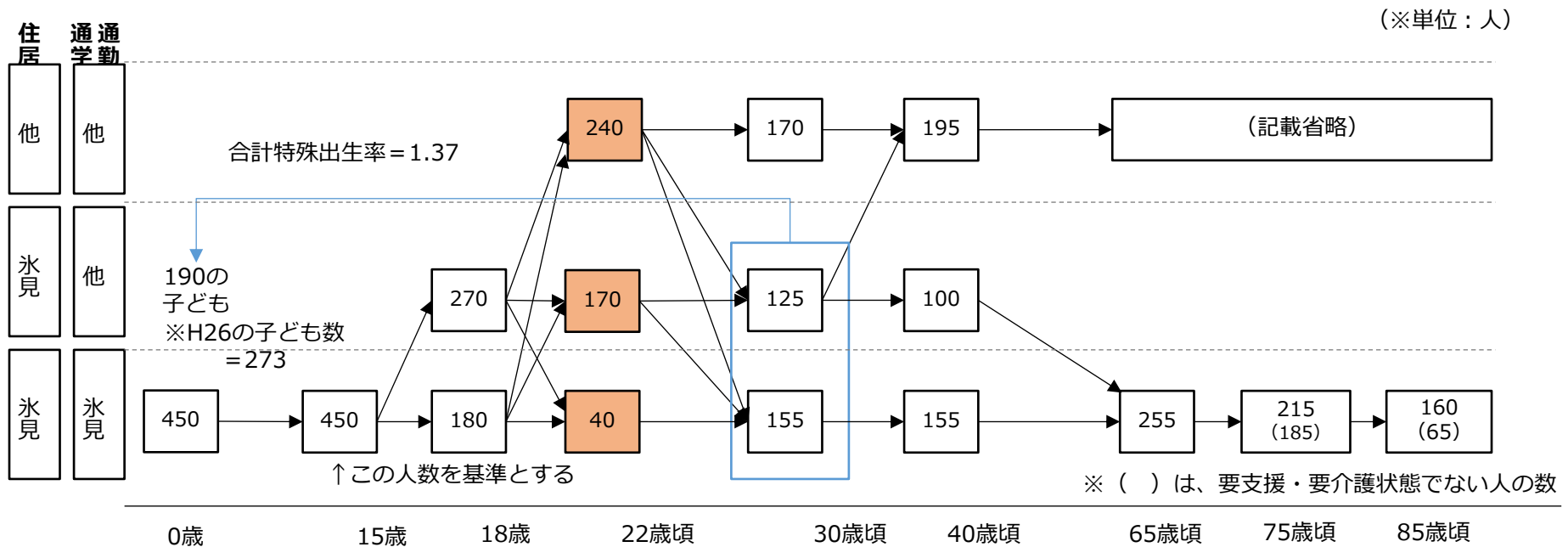


高校を卒業すると、

40人は氷見に住みながら、氷見で就職等をし、

170人は氷見に住みながら、市外の大学等へ、

240人は氷見を出て、市外に住み、大学等に通うことになりました。

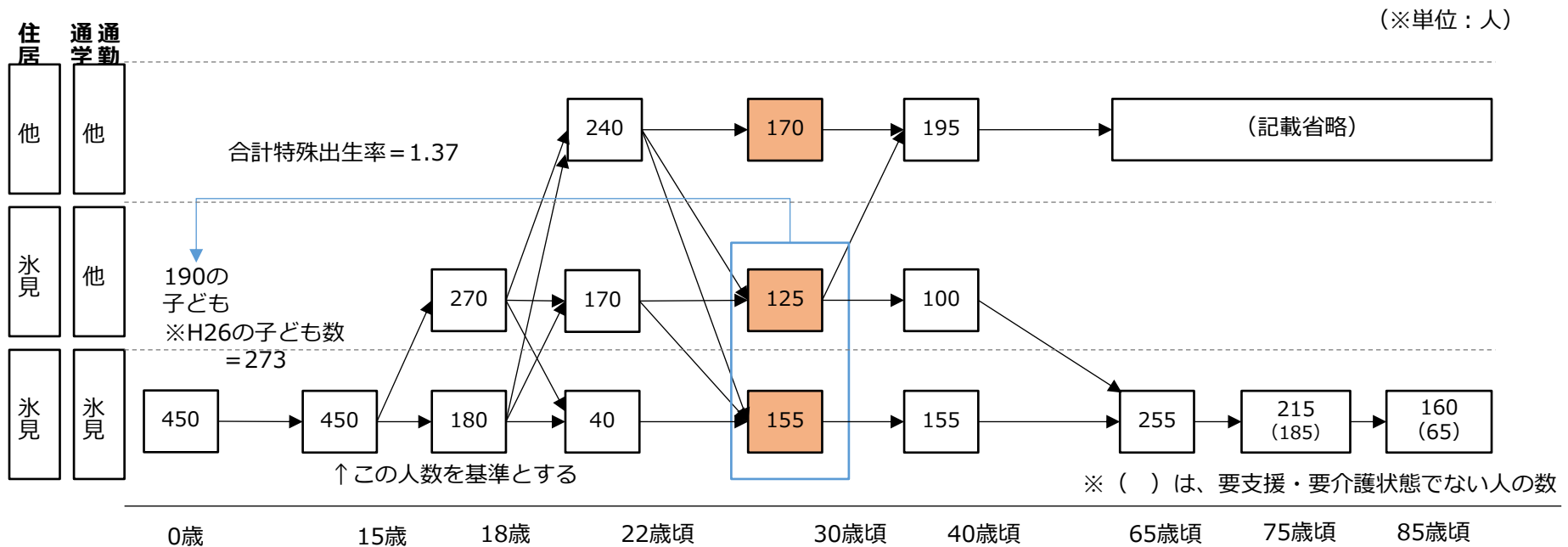


大学を卒業すると、

155人は氷見に住みながら、氷見で就職等をし、

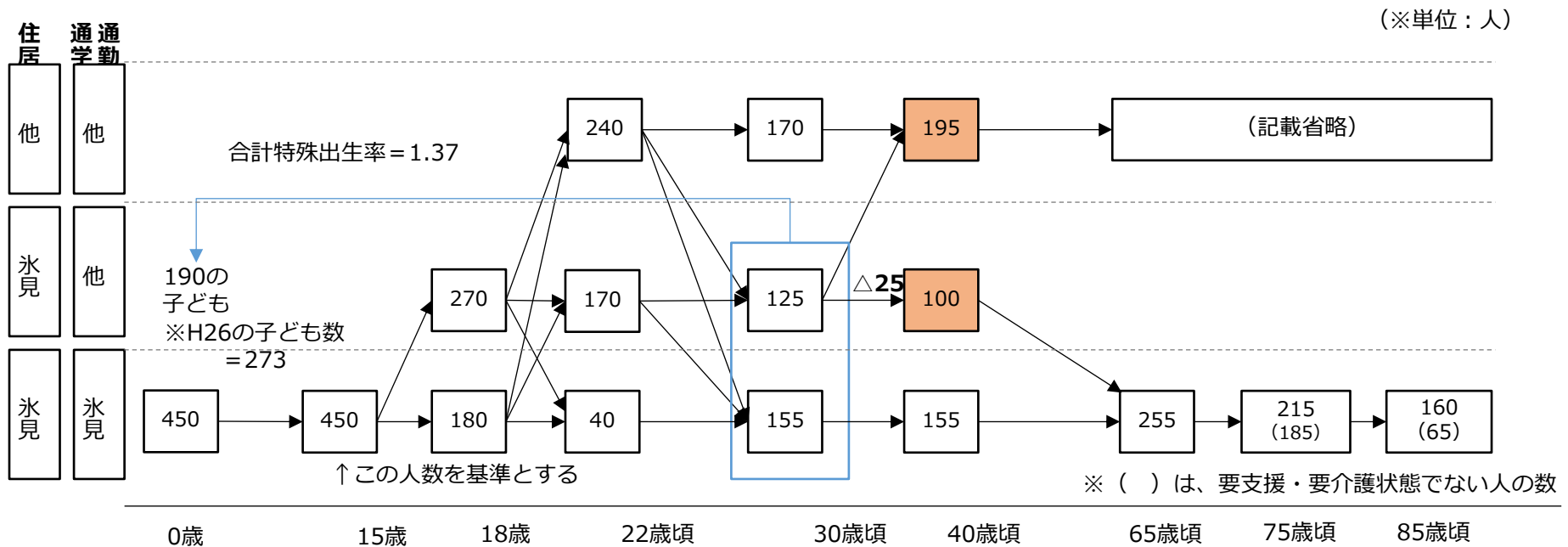
125人は氷見に住みながら、市外で就職等をしました。

170人は氷見に戻ることなく、市外で就職等をしました。



氷見に住んでいる280人の中には結婚・子育て等を機に、
職場の近くに引っ越したいと思う人達が出てきました。

結果として、25人が氷見から出て行きました。

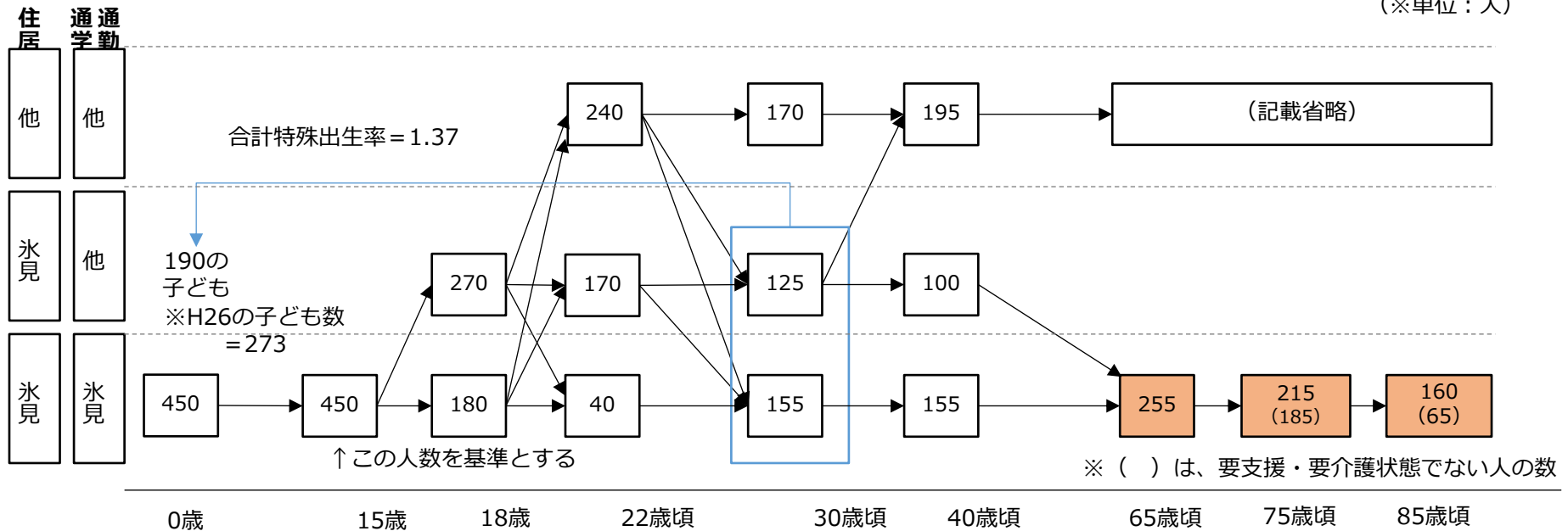


40歳を過ぎると、人の移動は少なくなりました。

もともと450人いた中学生のうち、氷見に残ったのは**255人**。

75歳頃、支援や介護が必要な状態の人の割合は、約1割ですが、
85歳頃になると、**約6割**の人が支援や介護が必要となります。

(※単位：人)



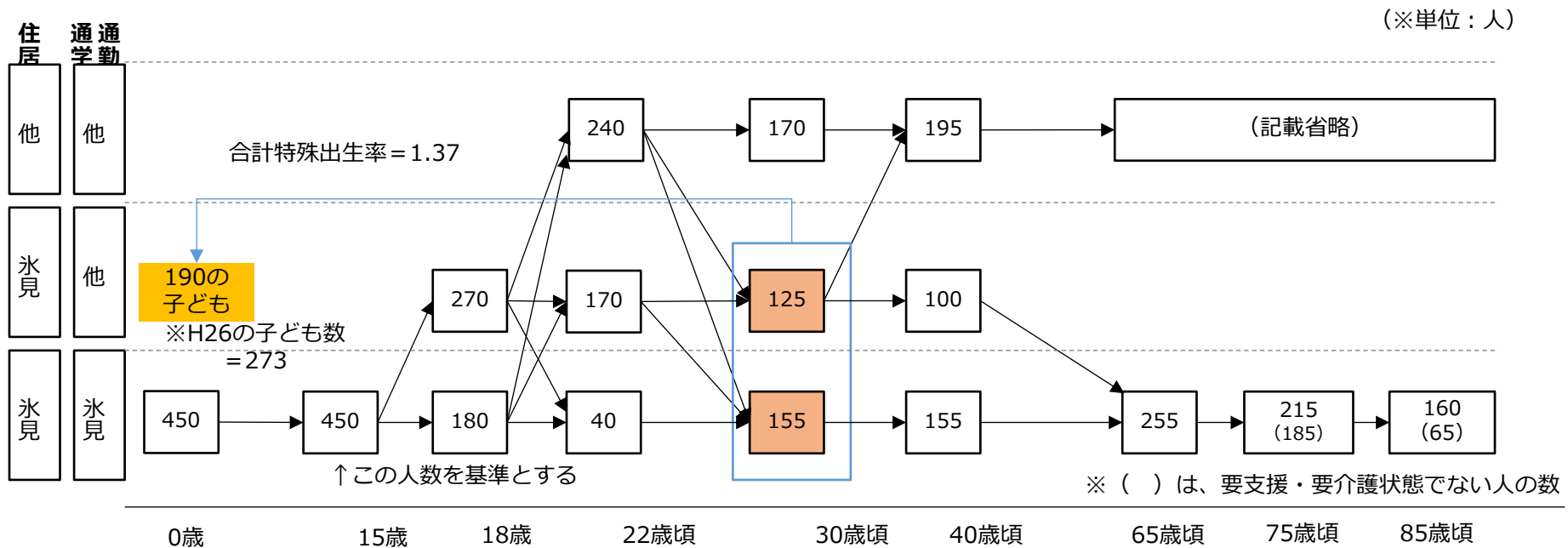
ところで、先ほどの図にもどりますが、
450人も、結婚して、こどもが生まれました。

氷見市の合計特殊出生率は1.37。氷見で生まれたこどもの数は、**190人**。
450人がいた中学校の教室は、半分以上が空席になります。

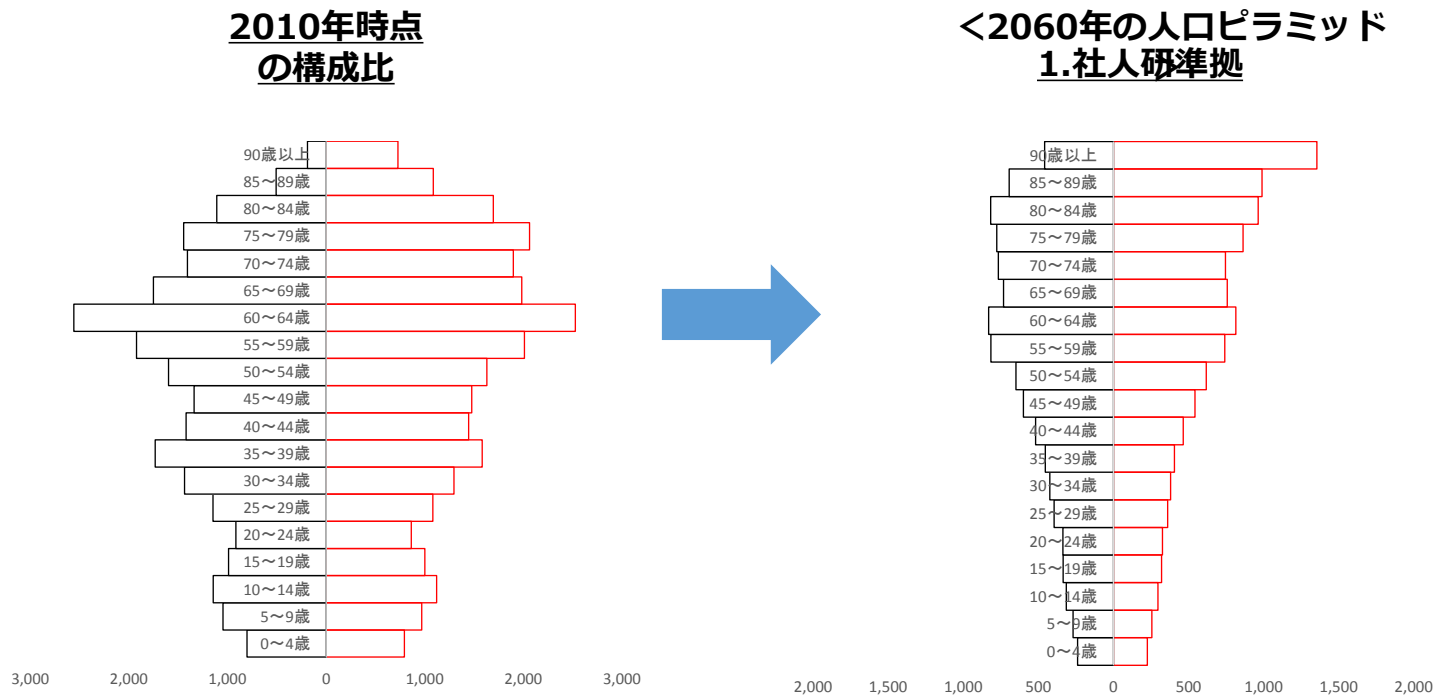
次は、この190人のこどもたちの未来を、想像してみましょう。

こども達が大人になった時、このまちにはどれくらいの人が暮らすのでしょうか。
みんな笑顔で、元気に、幸せに暮らしているのでしょうか。

そのために今、私達がやるべきことは、何なのでしょう。

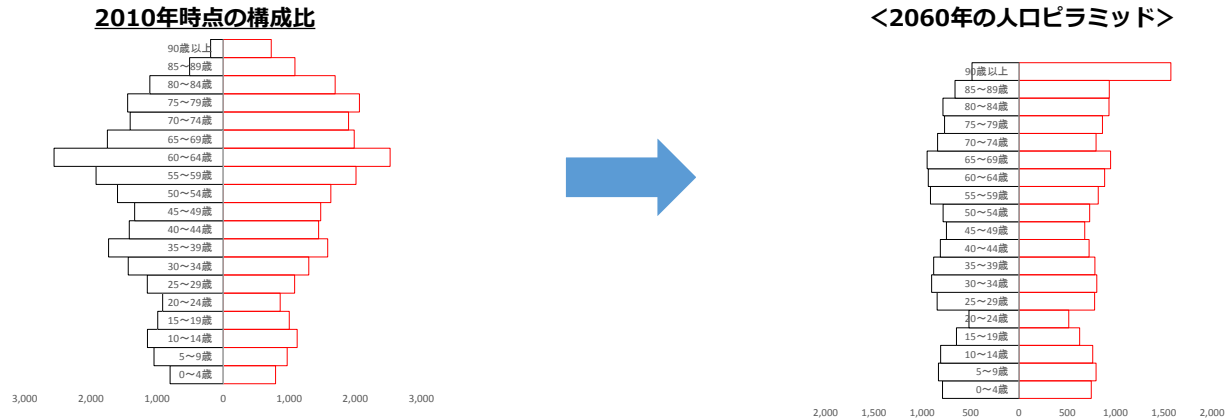


こどもが減っていくと、人口ピラミッドは**逆三角形**の形になります。
高齢者に対し、若者が減るためです。



※上記のグラフは、一番下が0~4歳、一番上が90歳以上で5歳刻みの人口を棒グラフにしたものであり、左が男性の人口、右が女性の人口を記載しております

持続可能な社会を目指すためには、
人口ピラミッドを逆三角形から**寸胴型**にしていくことが必要です。



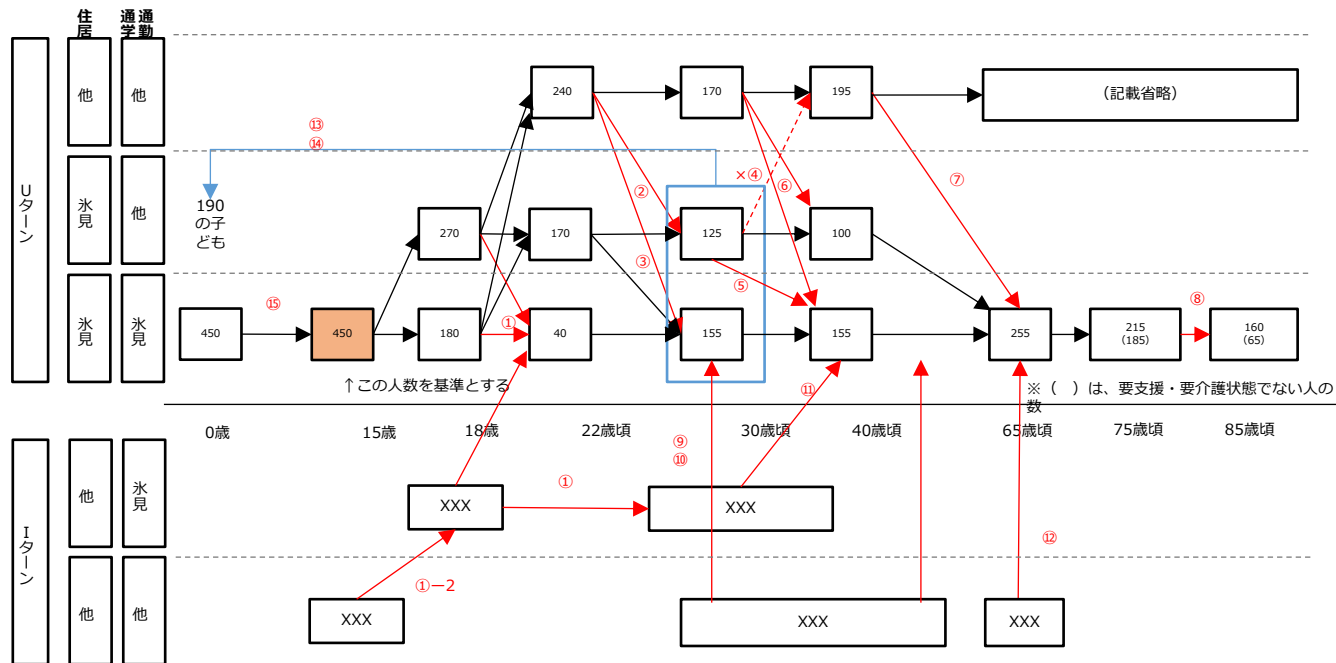
また、**健康長寿で暮らす元気なお年寄りの割合を増やし**、
一度市外へ出て行ってもいつか戻ってくるような**Uターンを増やし**、
そしてこのまちにずっと住み続ける**定住者を増やす**といった
市民の希望をかなえることも大切な視点となります。

重視すること	ライフステージ
(1)希望をかなえる ・帰ってくる (Uターン) ・住み続ける (定住) ・健康長寿で暮らす	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	×
	長生き世代
	×
(2)持続可能な社会にする (=寸胴型人口ピラミッドの実現) ・氷見を選んでもらう (IJターン) ・地域の子ども数を維持する	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	×
	誕生・入学・進学 (0・7・15才)

氷見市は、市民の希望をかなえ、持続可能な社会を実現するため、「ライフステージごとの人口移動」を確認し、「15の観点」を設定しました。

- ① この15の観点を元に、「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。
- ② “ターゲットを明確”にした結果の出る政策を立案し、執行してまいります。
- ③ 今後、市民一人ひとり、産官学金労言、地域団体等が、“おらっっちゃ創生”としてそれぞれ人口減少社会に対応する方法を考え、実行していきます。

【観点】希望をかなえ、持続可能な社会にするための「氷見市15の観点」



15の観点

- ① 【しごと】 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ①-2 【ひとの流れ】 他地域からの氷見高校入学者を増やす
- ② 【ひとの流れ】 20代のUターンを増やす
- ③ 【しごと】 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④ 【ひとの流れ】 氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤ 【しごと】 ④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥ 【子育て】 子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす
- ⑦ 【ひとの流れ】 定年後のUターンを増やす
- ⑧ 【安心な暮らし】 長生きをする&健康寿命を伸ばす
- ⑨ 【ひとの流れ】 20~40代のIターンを増やす
- ⑩ 【しごと】 20~40代のIターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪ 【ひとの流れ】 他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫ 【ひとの流れ】 定年後のIターンを増やす
- ⑬ 【結婚】 婚姻数を増やす
- ⑭ 【出産】 出生数を増やす
- ⑮ 【ひとの流れ】 未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす